

第Ⅱ部 英国の労働災害発生状況について

1 英国の労働災害統計について

英国健康安全庁（以下「HSE」という。）は、自国の労働災害発生状況（業務上の死亡事故、傷害、疾病等に関するものを含む。）に関して、多彩な統計資料を、そのホームページ上で公表しています。これら（名称、公表時期、概要等）の統計資料から、この資料作成者が重要なものとして抜粋したものは、おおむね次の表のとおりです。本稿では、これらの公表された統計等のうち、日本の労働災害統計資料と類似性があるものを中心として、次の 2 以下に、現時点で公表された最新のデータに基づき、英国における主要な労働災害の発生状況に関して紹介します。

（資料作成者注：紫色字は、2019年10月に確認したものです。）

番号	名称	公表時期	概要
1	Health and Safety Statistics Annual Report for Great Britain （健康安全統計、グレートブリテンについての年報）	毎年10月下旬	英国の年度(4月1日から翌年3月31日まで)における Ill health(疾病)、Injuries(傷害)、Working days lost(労働損失日数)、Economic costs to Britain (ブリテン(グレートブリテン島域内に限り、北アイルランドを含まない。)に対する経済的コスト)等
2	Fatal injury statistics, Summary （死亡事故、要約版）	毎年7月	前年度における死亡災害を速報値としてまとめたもの
3	Work-related ill health and occupational disease in Great Britain （グレートブリテンにおける作業関連疾病及び職業病。現時点での最新版は、2017/2018）	毎年10月	グレートブリテンにおける作業関連疾病及び職業病をまとめたもの
4	Occupational Lung Disease in Great Britain, 2018 （グレートブリテンにおける職業性肺疾病、現時点での最新版は、2018）	毎年10月	2007年度以降のグレートブリテンにおける職業性肺疾病をまとめたもの
5	Work-related asthma in Great Britain （グレートブリテンにおける職業関連の喘息。現時点での最新版は、2018）	毎年10月	職業性喘息の2007年度以降の発症状況、原因因子、職業別及び産業別の発症状況等をまとめたもの

6	Asbestos-related diseases in Great Britain (グレートブリテンにおける石綿関連の疾病。現時点での最新版は、2018)	毎年 10 月	石綿関連の疾病全体 (がん及びがん以外のもの) をまとめたもの
7	Mesothelioma in Great Britain (グレートブリテンにおける中皮腫。現時点での最新版は、1968-2017)	同上	英国では、石綿へのばく露が主要な原因となって遅発的に発症する中皮腫が、毎年度 1000 件を超えて発症しているため、1968 年から公表する時期の前年度までの石綿による中皮腫の発生状況及び将来の死亡者数予測等をまとめたもの
8	LFS - Labour Force Survey - Self-reported work-related ill health and workplace injuries Self-reported illness	毎年 10 月下旬	労働力調査の一環として(以下、次の 6 及び 7 において同じ。) (労働者が) 自己報告した作業関連疾病の統計
9	Estimated total and new cases of self-reported work-related illness by type of illness, for people working in the last 12 months	毎年 10 月下旬	過去 12 カ月間働いた人々についての疾病の種類別の自己報告した作業関連疾病に関する見積られた合計及び新規の疾病 (数) に関する統計
10	New cases of self-reported work-related illness	毎年 10 月下旬	新規の自己報告の作業関連疾病に関する統計
11	Reports of ill health by doctors and specialist physicians	不定期	マンチェスター大学職業及び環境健康センター (COEH) によってネットワーク化され、解析されており、その指定した医師及び内科専門医によって (作業関連又は環境関連の) 新規に診断された疾病に関する任意的な報告
12	Work related musculoskeletal disorders in Great Britain (WRMSDs) (作業関連の筋骨格系障害。現時点での最新版は、2018)	毎年 10 月	筋骨格系障害について、まとめたもの
13	Ill health assessed for Industrial Injuries Disablement Benefit (IIDB) in 2013	毎年 10 月	労働年金省 (Department for Work and Pensions (DWP)) による 2013 年度における産業災害に関する労働不能給付の対象となった疾病の評価

14	Employer-reported non-fatal injuries under RIDDOR	毎年 10 月	RIDDOR (The Reporting of Injuries, Diseases and Dangerous Occurrences Regulations: 傷害、疾病及び危険事象報告規則) に基づく雇用者からの報告による非致命的傷害
----	---	---------	---

2 グレートブリテンにおける労働災害統計の2018/19版の要約版 (Health and safety at work, Summary statistics for Great Britain)

英国健康安全庁 (HSE) は、2019年10月30日に、グレートブリテン (イングランド、スコットランド及びウェールズの地域の総称であり、北アイルランドは含みません。以下同じです。) における労働災害統計の2019年発表の要約版 (Health and safety at work Summary statistics for Great Britain 2019) を公表しました。そこで、次にこの要約版を「英語原文—日本語仮訳」として紹介します。

(参考)

なお、この要約版のほか、当国際課では、次の状況をそのウェブサイトで既に公表していますので、これらを併せて参照して下さい。

■ 2019年8月9日

- [英国の職業性肺疾患の状況\(2018年度\)](https://www.jisha.or.jp/international/topics/pdf/201907_02.pdf) (PDF 862KB) : https://www.jisha.or.jp/international/topics/pdf/201907_02.pdf

■ 2019年7月31日

- [英国における中皮腫の発生状況\(2017年\)](https://www.jisha.or.jp/international/topics/pdf/201907_02.pdf) (PDF 757KB) : https://www.jisha.or.jp/international/topics/pdf/201907_02.pdf

■ 2019年7月26日

- [英国安全衛生庁は2018年度の死亡災害の速報値を公表しました。](https://www.jisha.or.jp/international/topics/pdf/201907_01.pdf) (PDF 1,139KB) :

https://www.jisha.or.jp/international/topics/pdf/201907_01.pdf

英国健康安全庁（HSE）は、このたび（2019年10月30日に）グレートブリテン（イングランド、スコットランド及びウェールズの地域の総称であり、北アイルランドは含みません。以下同じです。）における労働災害統計の2019年発表の要約版（Health and safety at work Summary statistics for Great Britain 2019。資料作成者注：2018年4月1日から2019年3月31日までの死亡災害及び休業災害の統計を意味し、2018/19と略称されることがあります。以下同じです。）を公表しました。これによると、死亡災害は147件（資料作成者注：被雇用者が106件及び自営業者が41件（備考を参照して下さい。））で、2017/18における144と比較すると3件増加しました。本稿は、その全文について、必要に応じて資料作成者の注、解説等を付して、「英語原文—日本語対訳」として紹介するものです。

備考:資料出所 “ Table 1: Fatal injuries to workers (employees and the self-employed) in Great Britain by main industry - 2018/19p, 2017/18r, and total for 2014/15-2018/19p”

2019年11月

中央労働災害防止協会技術支援部国際課

(作成者注：以下の記述のうち、「イタリック体で表記されているもの」は、作成者が文意を補足するために加えたものです。)

○原資料の題名及び所在等

- Health and safety at work Summary statistics for Great Britain 2019
- <http://www.hse.gov.uk/statistics/overall/hssh1819.pdf>
- 著作権について：これらのHSEが、関連するウェブサイトで公表している資料については、“Open Government Licence for public sector information”にあるとおり、資料出所を明記する等の一定の条件を満たせば、自由にコピーし、公表し、配布し、及び転送し、情報を加工すること等が許容されています。

(資料作成者注：その資料の表紙は、次のとおりです。)



Health and safety at work

Summary statistics for Great Britain 2019



はじめに

英国健康安全庁（Health and Safety Executive）は、2019年10月30日に、グレートブリテンにおける労働災害統計の2018/2019の要約版を公表しました。今回公表された統計資料は、読者の理解しやすさをより高めるために2018年に改訂されたスタイルや図表類等が基本的に踏襲されています。

そこで、本稿においては、昨年と同様に、先ず原典の記述、図表類等をそのままコピーして引用し、次にこれらの記述、図表類等における英語の原文を日本語仮訳にしたものとして作成してあります。また、必要に応じて資料作成者の注、解説等を付しています。

Key facts



1.4
million

Work-related ill health cases (new or long-standing) in 2018/19

Source: Estimates based on self-reports from the Labour Force Survey, people who worked in the last 12 months



0.6
million

Work-related stress, depression or anxiety cases (new or long-standing) in 2018/19

Source: Estimates based on self-reports from the Labour Force Survey, people who worked in the last 12 months



0.5
million

Work-related musculoskeletal disorder cases (new or long-standing) in 2018/19

Source: Estimates based on self-reports from the Labour Force Survey, people who worked in the last 12 months



9.8
billion

Annual costs of new cases of work-related ill health in 2017/18, excluding long latency illness such as cancer

Source: Estimates based on HSE Costs to Britain Model



0.6
million

Workers sustaining a non-fatal injury in 2018/19

Source: Estimates based on self-reports from the Labour Force Survey



69,208

Non-fatal injuries to employees reported by employers in 2018/19

Source: RIDDOR



147

Fatal injuries to workers in 2018/19

Source: RIDDOR



5.2
billion

Annual costs of workplace injury in 2017/18

Source: Estimates based on HSE Costs to Britain Model



28.2
million

Working days lost due to work-related ill health and non-fatal workplace injuries in 2018/19

Source: Estimates based on self-reports from the Labour Force Survey



12,000

Lung disease deaths each year estimated to be linked to past exposures at work

Source: Counts from death certificates and estimates from epidemiological information



2,526

Mesothelioma deaths in 2017, with a similar number of lung cancer deaths linked to past exposures to asbestos

Source: Counts from death certificates and estimates from epidemiological information



15.0
billion

Annual costs of work-related injury and new cases of ill health in 2017/18, excluding long latency illness such as cancer

Source: Estimates based on HSE Costs to Britain Model

(鍵となる事実 (Key facts))

(資料作成者注：前頁の英語原文の記述について、各列の最左端の列の上から下、次に左から右に向けて日本語仮訳を作成してあります。)

- 2018/19 では、140 万人の労働者が作業関連疾病に罹患しています（新規又は長期的な罹患患者）。（資料出所：労働力調査からの自己報告に基づく推計値。過去 12 ヶ月間労働した人々について）
- 2018/19 では、非致命的な傷害に被災した労働者は、60 万人（件）です。（資料出所：労働力調査からの自己報告に基づく推計値）
- 2017/18 では、作業に関連する疾病及び労働者の非致命的な傷害によって 2,820 万の労働日が失われました。（資料出所：労働力調査からの自己報告に基づく推計値）
- 2018/19 では、60 万人の労働者が作業関連のストレス、鬱(うつ)又は不安に罹患しています（新規又は長期的な罹患患者）。（資料出所：労働力調査からの自己報告に基づく推計値。過去 12 ヶ月間労働した人々について）
- 2018/19 では、使用者によって報告された被雇用者の非致命的な傷害は、69,208 件です。（資料出所：RIDDOR (資料作成者注：Reporting of Injuries, Diseases and Dangerous Occurrences Regulations 2013：傷害、疾病及び危険事象の報告に関する規則 2013 年) に基づくもの。以下同じです。)
- 職場での過去のばく露と結び付く毎年の肺疾病による死亡者は、12,000 人と推計されています。（資料出所：死亡証明からの計数及び疫学的な情報からの推計値）
- 2018/19 では、50 万人の労働者が筋骨格系障害に罹患しています（新規又は長期的な罹患患者）。（資料出所：労働力調査からの自己報告に基づく推計値。過去 12 ヶ月間労働した人々について）
- 2018/19 では、労働者の死亡災害は、147 人（件）です。（資料出所：RIDDOR：資料作成者注 労働者及び自営業者の合計値です。）
- 2017 年では、中皮腫による死亡者は、2,526 人で、過去の石綿へのばく露と結びつく肺がん死亡者が同数程度います。（資料出所：死亡証明及び疫学的な情報からの推計値）
- 2017/18 では、年間の作業関連の新規の疾病のコストは、がんのような長期的な潜伏期間のあるものを除いて、98 億ポンドです。（資料出所：健康安全庁のブリテンコストモデルによる推計値）
- 2017/18 の作業場での傷害の年間のコストは、52 億ポンドです。（資料出所：健康安全庁のブリテンコストモデルによる推計値）
- 2017/18 では、年間の作業関連傷害及び新規の疾病のコストは、がんのような長期的な潜伏期間のあるものを除いて、150 億ポンドです。（資料出所：健康安全庁のブリテンコストモデルによる推計値）



Work-related ill health

1.4 million

Workers suffering from work-related ill health (new or long-standing) in 2018/19

497,000

Workers suffering from a new case of work-related ill health in 2018/19

23.5 million

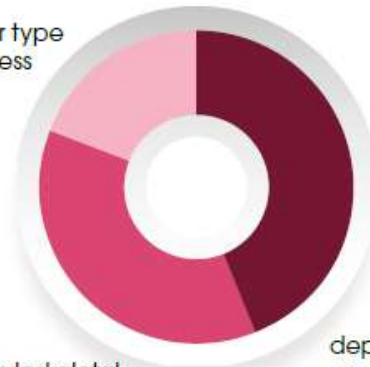
Working days lost due to work-related ill health in 2018/19

13,000

Deaths each year estimated to be linked to past exposure at work, primarily to chemicals or dust

New and long-standing cases of work-related ill health by type, 2018/19

19%
Other type of illness

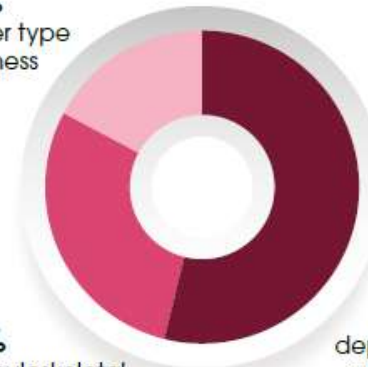


37%
Musculoskeletal disorders

44%
Stress, depression or anxiety

Working days lost by type of ill health, 2018/19

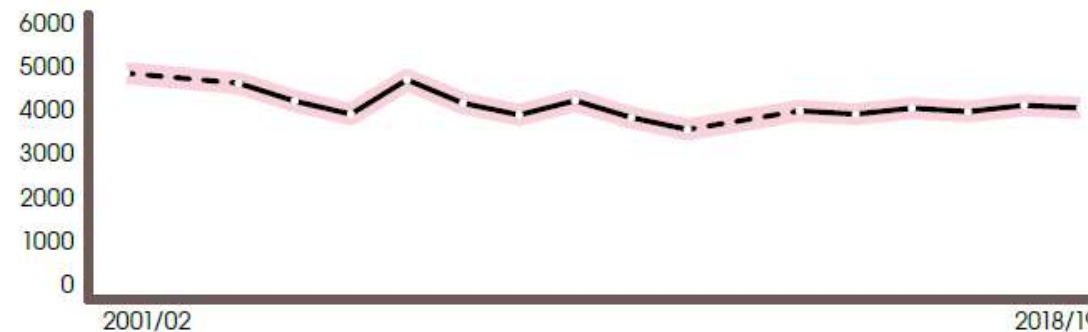
17%
Other type of illness



29%
Musculoskeletal disorders

54%
Stress, depression or anxiety

Work-related ill health per 100,000 workers: new and long-standing



Shaded area represents a 95% confidence interval

No ill health data was collected in 2002/03 and 2012/13, represented by a dashed line

The rate of self-reported work-related ill health showed a generally downward trend but has been broadly flat in recent years.

Similarly, working days lost per worker due to self-reported work-related illness showed a generally downward trend but has been broadly flat in recent years.

Estimates of ill health based on Labour Force Survey (LFS) self-reports and deaths are based on counts from death certificates and estimates from epidemiological information.

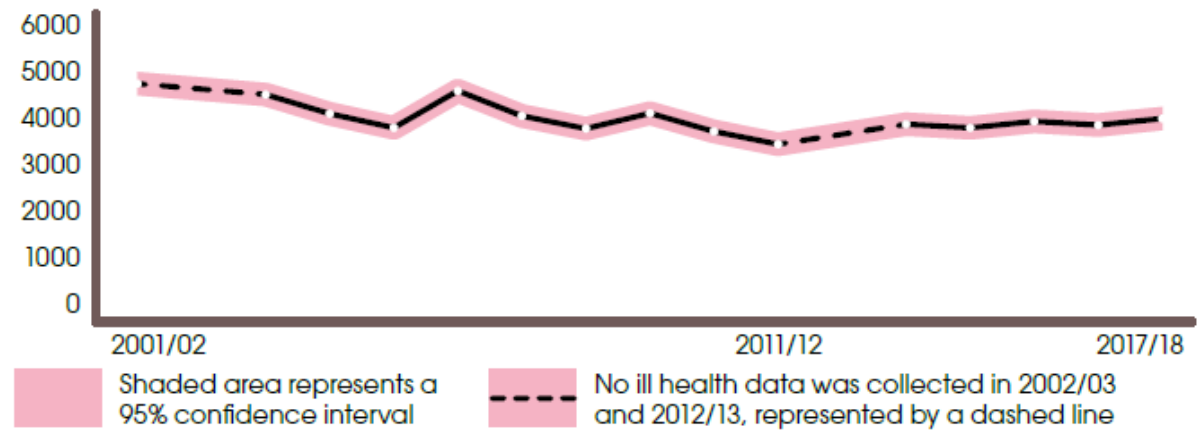
To find out the story behind the key figures, visit www.hse.gov.uk/statistics/causdis/



(作業関連疾病)

(資料作成者注：前頁の記述及びグラフについては、次のとおり3段表にして、英語原文についてその日本語仮訳を作成しました。)

前頁の左欄	前頁の中央の欄	前頁の右欄
<p>140 万人の労働者が作業関連疾病に罹患しています (2018/19 における新規又は長期的な罹患患者)。</p>	<p>作業関連疾病の種類 (資料作成者注：英語原文の記述を、疾病の割合の多い順番に変えて日本語仮訳を作成してあります。)</p> <p>○ 2018/19 における新規及び長期的な罹患患者の型別 (の割合(%))</p> <ul style="list-style-type: none"> • 44%は、ストレス、鬱又は不安によるもの • 37%は、筋骨格系傷害によるもの • 19%は、他の種類の疾病である。 	<p>自己報告による作業関連疾病の発生率は、一般的に減少傾向にあります。近年では長く横ばいです。</p>
<p>2018/19 には、49 万 7 千人の労働者が新規の作業関連疾病に罹患しています。</p> <p>2018/19 には、2,350 万労働日が、作業関連疾病のために失われました。</p>	<p>○ 2018/19 における (作業関連の疾病による) 型別の労働損失日数(の割合 (%))</p> <ul style="list-style-type: none"> • 54%は、ストレス、鬱又は不安によるもの • 29%は、筋骨格系傷害によるもの • 17%は、他の種類の疾病によるもの 	<p>同様に、作業関連疾病による労働者 (1 人当たりの) 労働損失日数は、一般的には減少傾向でしたが、その後長く横ばいです。</p>
<p>過去の職場での化学物質又は粉じんへのばく露と関連して毎年 13,000 人の死亡があると推計されています。</p>	<p>労働者 100,000 人当たりの作業関連疾病 (つまり発生率) : 新規及び長期的なもの</p>	<p>自己報告による労働力調査 (LFS) に基づく健康傷害及び死亡証明からの数及び疫学的情報からの推計値に基づく死亡の推計値。</p> <p>鍵となる数字の背景にある説明については、 www.hse.gov.uk/</p>

Work-related ill health per 100,000 workers: new and long-standing



	この色で塗られている部分は、95%信頼性区間を示す。
	この点線入りで塗られている部分は、2002/2003 及び 2012/2013 では、疾病のデータが収集されなかった (ことを示す)。

statistics/causdis
を参照して下さい。



Work-related stress, depression or anxiety

602,000

Workers suffering from work-related stress, depression or anxiety (new or long-standing) in 2018/19

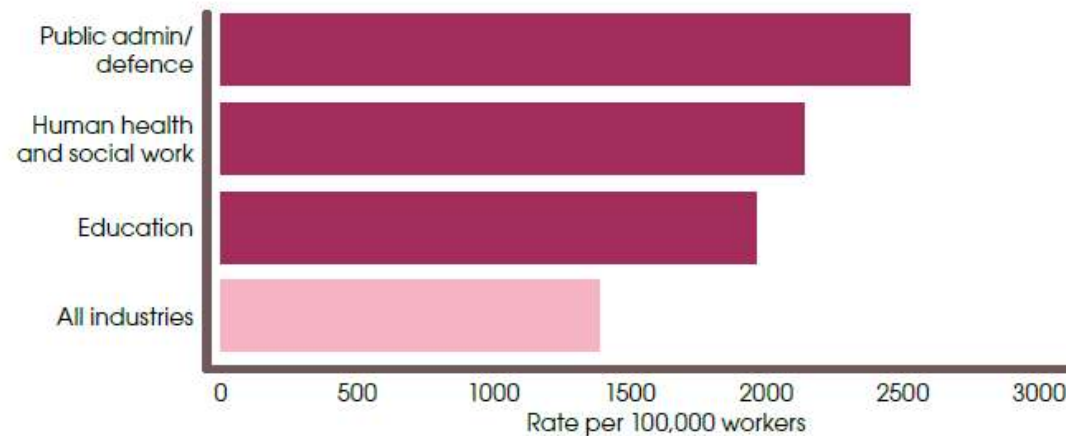
246,000

Workers suffering from a new case of work-related stress, depression or anxiety in 2018/19

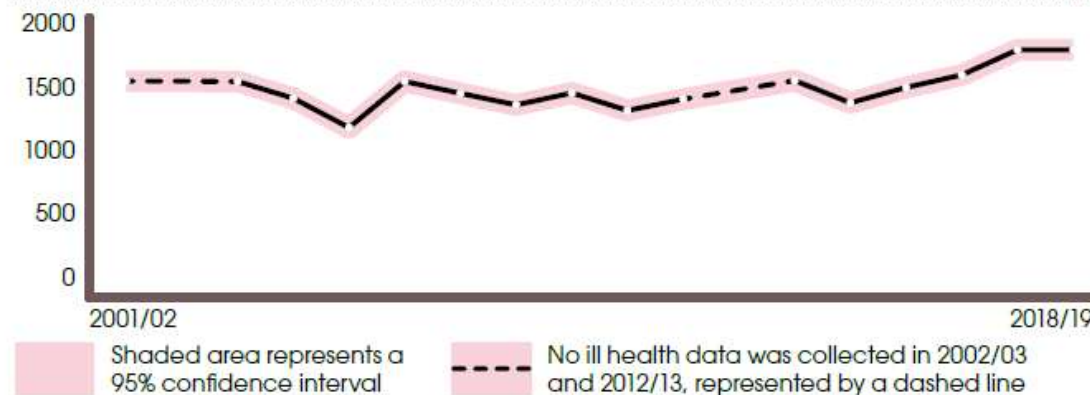
12.8 million

Working days lost due to work-related stress, depression or anxiety in 2018/19

Industries with higher than average rates of stress, depression or anxiety, averaged 2016/17–2018/19



Stress, depression or anxiety per 100,000 workers: new and long-standing



The rate of self-reported work-related stress, depression or anxiety was broadly flat but has shown signs of increasing in recent years.

Working days lost per worker due to self-reported work-related stress, depression or anxiety shows no clear trend.

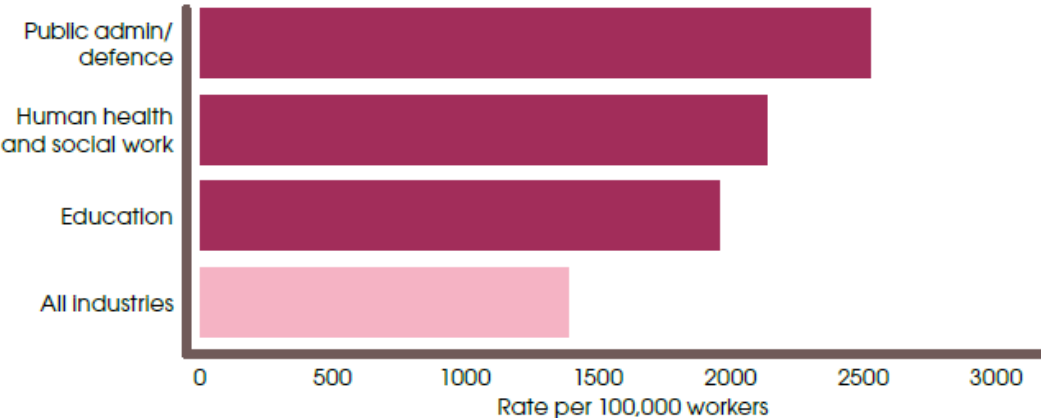
Workload, lack of support, violence, threats or bullying and changes at work are estimated to be the main causes of work-related stress, depression or anxiety based on 2009/10–2011/12 LFS data.

Estimates of work-related stress, depression or anxiety are based on self-reports from the Labour Force Survey (LFS).

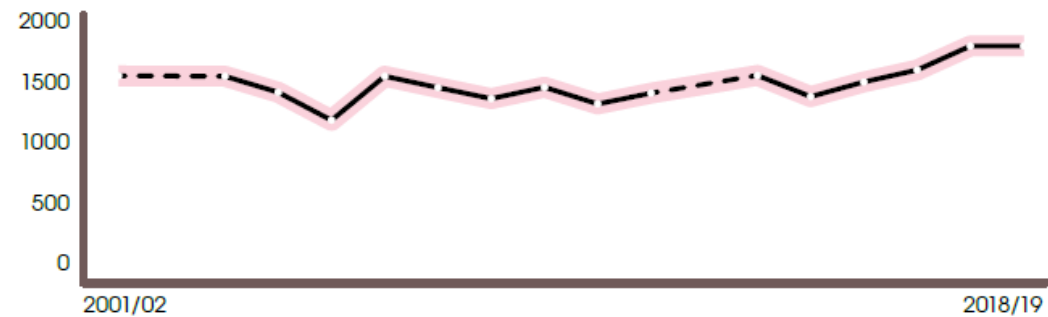
To find out the story behind the key figures, visit www.hse.gov.uk/statistics/causdis

(作業関連のストレス、鬱又は不安)



(資料作成者注：前頁の Work-related stress, depression or anxiety (作業関連のストレス、鬱又は不安) のグラフ、数字については、次のとおり三段表にして英語原文—日本語仮訳を掲載してあります。)

左欄の (統計) 数字	中欄のグラフ	右欄の説明										
<p>602,000 人の労働者が、2018/19 に作業関連のストレス、鬱又は不安に罹患しています (新規又は長期の疾病)。</p>	<p>Industries with higher than average rates of stress, depression or anxiety, averaged 2016/17–2018/19 (ストレス、鬱(うつ)又は不安の発症率が平均よりも高い産業、2016/17–2018/19 の平均)</p>  <table border="1"> <caption>産業別のストレス、鬱、不安の発生率 (2016/17–2018/19 平均)</caption> <thead> <tr> <th>産業</th> <th>発生率 (100,000 労働者あたり)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公務/国防</td> <td>約 2500</td> </tr> <tr> <td>医療及び社会福祉業</td> <td>約 2100</td> </tr> <tr> <td>教育</td> <td>約 1900</td> </tr> <tr> <td>全産業</td> <td>約 1400</td> </tr> </tbody> </table>	産業	発生率 (100,000 労働者あたり)	公務/国防	約 2500	医療及び社会福祉業	約 2100	教育	約 1900	全産業	約 1400	<ul style="list-style-type: none"> 自己報告による、作業関連のストレス、鬱又は不安の発生率は、長い間横ばいのままですが、近年では増加する兆候が見られます。 作業関連のストレス、鬱又は不安による労働損失日数は、明白な傾向を示していません。 作業負荷、支援の欠如、脅し又はいじめ及び作業の変更が、2009/10–2011/12 の労働力調査に基づく主要なストレス、鬱(うつ)又は不安の原因であると推定されています。 労働力調査 (LFS) からの自
産業	発生率 (100,000 労働者あたり)											
公務/国防	約 2500											
医療及び社会福祉業	約 2100											
教育	約 1900											
全産業	約 1400											
<p>246,000 人の労働者が 2018/19 に、新規の作業関連のストレス、鬱又は不安に罹患しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 公務/国防 医療及び社会福祉業 教育 全産業 											
<p>作業関連のストレス、鬱又は不安によって、2018/19 に 1280 万労働日が失われています。</p>												

Stress, depression or anxiety per 100,000 workers: new and long-standing



(資料作成者説明) 労働者 100,000 人当たりのストレス、鬱又は不安の罹患者数 (つまり発生率) : 新規及び長期的なもの

	この色で塗られている部分は、95%信頼区間を示します。
	この点線入りで塗られている部分は、2002/2003 及び 2012/2013 では、疾病のデータが収集されなかった (ことを示します)。

已報告に基づく作業関連のストレス、鬱^{うつ}又は不安の推計値

- 鍵となる数字に関する説明は、
- www.hse.gov.uk/statistics/causdis/を参照して下さい。



Work-related musculoskeletal disorders

498,000

Workers suffering from work-related musculoskeletal disorders (new or long-standing) in 2018/19

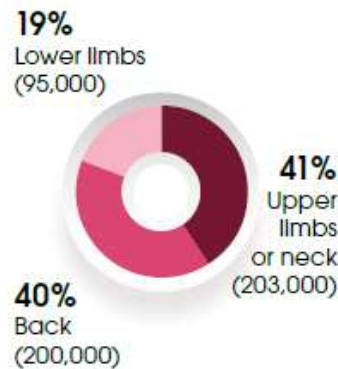
138,000

Workers suffering from a new case of work-related musculoskeletal disorder in 2018/19

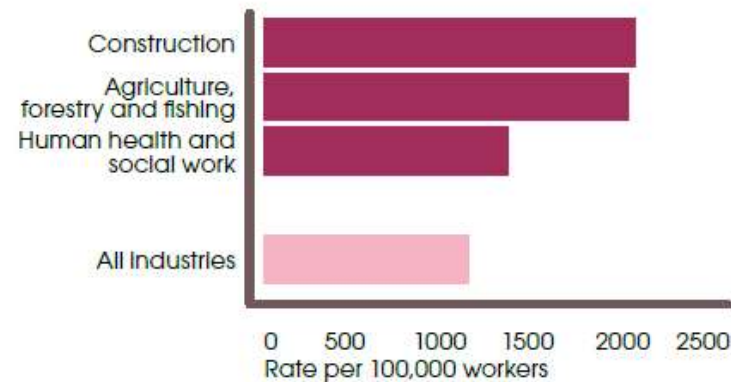
6.9 million

Working days lost due to work-related musculoskeletal disorders in 2018/19

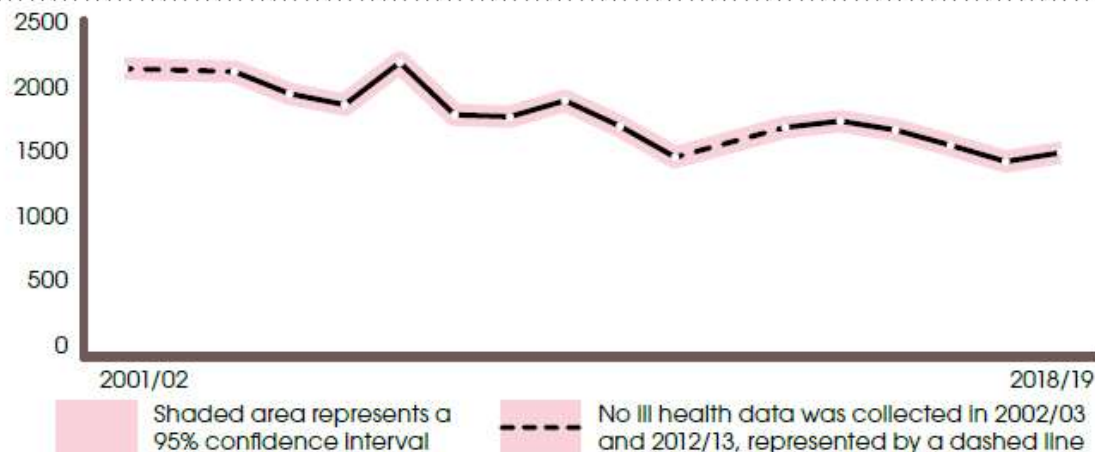
Musculoskeletal disorders by affected area, 2018/19



Industries with higher than average rates of musculoskeletal disorders, averaged 2016/17-2018/19



Musculoskeletal disorders per 100,000 workers: new and long-standing



The rate of self-reported work-related musculoskeletal disorders showed a generally downward trend.

Similarly, working days lost per worker due to self-reported work-related musculoskeletal disorders showed a generally downward trend.

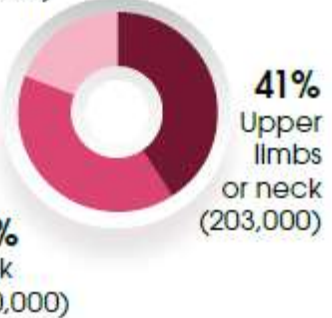
Manual handling, awkward or tiring positions and keyboard work or repetitive action are estimated to be the main causes of work-related musculoskeletal disorders based on 2009/10-2011/12 LFS data.

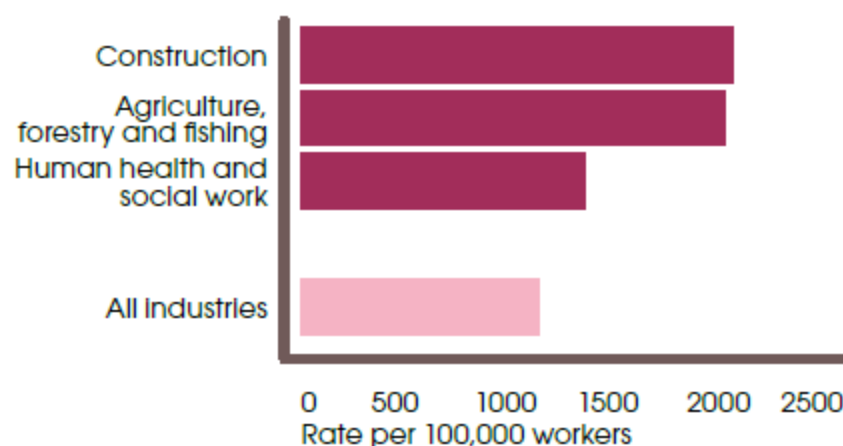
Estimates of work-related musculoskeletal disorders are based on self-reports from the Labour Force Survey (LFS).



To find out the story behind the key figures, visit www.hse.gov.uk/statistics/causdis/

(作業関連の筋骨格系障害)

(資料作成者注：前ページの *Work-related musculoskeletal disorders* (作業関連の筋骨格系障害) の数字、グラフの説明については、次の三段表として、「英語原文—日本語仮訳」を掲載してあります。)

左欄の統計数字	中欄のグラフ等	右欄の説明 (日本語仮訳)												
<p>498,000 人、 2018/19 における筋骨格系障害 (新規又は長期的なもの) に罹患している労働者 (の数)</p> <p>138,000 人、 2018/19 における筋骨格系障害 (新規) に罹患している労働者 (の数)</p> <p>690 万日</p>	<p>Musculoskeletal disorders by affected area, 2018/19 (影響を受けた部位別の筋骨格系障害、2018/19)</p> <p>Musculoskeletal disorders by affected area, 2018/19</p>  <table border="1"> <caption>Musculoskeletal disorders by affected area, 2018/19</caption> <thead> <tr> <th>Affected Area</th> <th>Percentage</th> <th>Number of Cases</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Upper limbs or neck</td> <td>41%</td> <td>203,000</td> </tr> <tr> <td>Back</td> <td>40%</td> <td>200,000</td> </tr> <tr> <td>Lower limbs</td> <td>19%</td> <td>95,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>(上の円グラフの資料作成者説明) 筋骨格系障害で影響を受ける部位 (の件数及び割合、%)</p>	Affected Area	Percentage	Number of Cases	Upper limbs or neck	41%	203,000	Back	40%	200,000	Lower limbs	19%	95,000	<p>自己報告による作業関連の筋骨格系障害の発生率は、一般的に減少傾向にあります。</p> <p>労働者 1 人当たりの労働損失日数は、長期的には減少傾向を示しました。</p> <p>2009/10–2011/12 の労働力調査 (LFS) のデータによれば、手作業、不自然な姿勢か、若しくは疲れる姿勢及びキーボード作業又は繰り返し作業が、筋骨格系障害の主要な原因であると見られます。</p> <p>労働力調査 (LFS) からの自己報告に基づく作業関連の筋骨格系障害の推計値</p>
Affected Area	Percentage	Number of Cases												
Upper limbs or neck	41%	203,000												
Back	40%	200,000												
Lower limbs	19%	95,000												

2018/19 における筋骨格系障害による労働損失日数	部位	件数	割合 (%)	鍵となる数字に関する説明は、 www.hse.gov.uk/statistics/causdis/ を参照して下さい。				
	上腕又は頸部	203,000	41%					
	背中	200,000	40%					
	下肢	95,000	19%					
<p>Industries with higher than average rates of musculoskeletal disorders, averaged 2016/16–2018/19 (2016/17–2018/19 の筋骨格系障害の平均の発生率よりも高い業種)</p>  <p>(上の横棒グラフの資料作成者説明) (2016/17–2018/19 の筋骨格系障害の平均の発生率よりも高い業種)</p> <table border="1"> <tr> <td>英語原文</td> <td>日本語仮訳</td> </tr> <tr> <td>Construction</td> <td>建設業</td> </tr> </table>					英語原文	日本語仮訳	Construction	建設業
英語原文	日本語仮訳							
Construction	建設業							

	Agriculture, forestry and fishing	農林水産業	
	Human health and social work	医療及び社会福祉業	
	All industries	全産業	
	<p>(資料作成者説明) 労働者 100,000 人当たりの筋骨格系障害 (つまり発生率) : 新規及び長期的なもの</p>		
		この色で塗られている部分は、95%信頼性区間を示します。	
		この点線入りで塗られている部分は、2002/2003 及び 2012/2013 では、疾病のデータが収集されなかった (ことを示します)。	



Occupational lung disease

12,000

Lung disease deaths each year estimated to be linked to past exposures at work

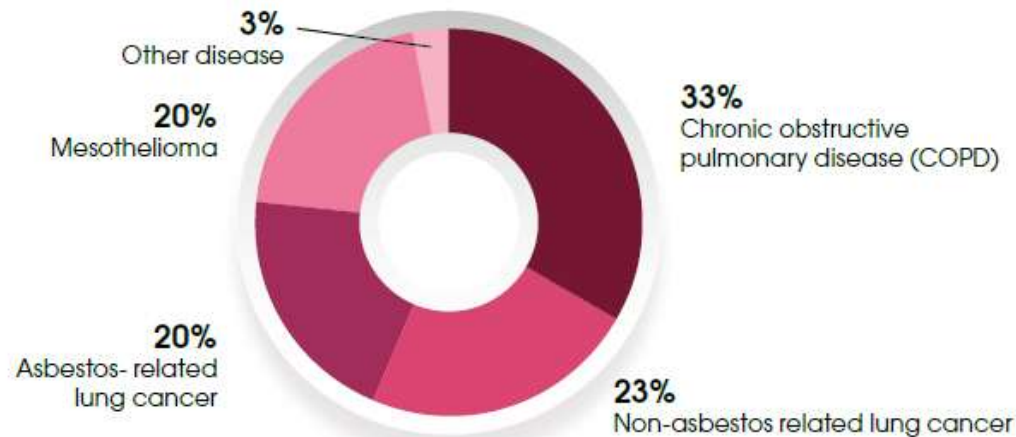
2,526

Mesothelioma deaths in 2017, with a similar number of lung cancer deaths linked to past exposures to asbestos

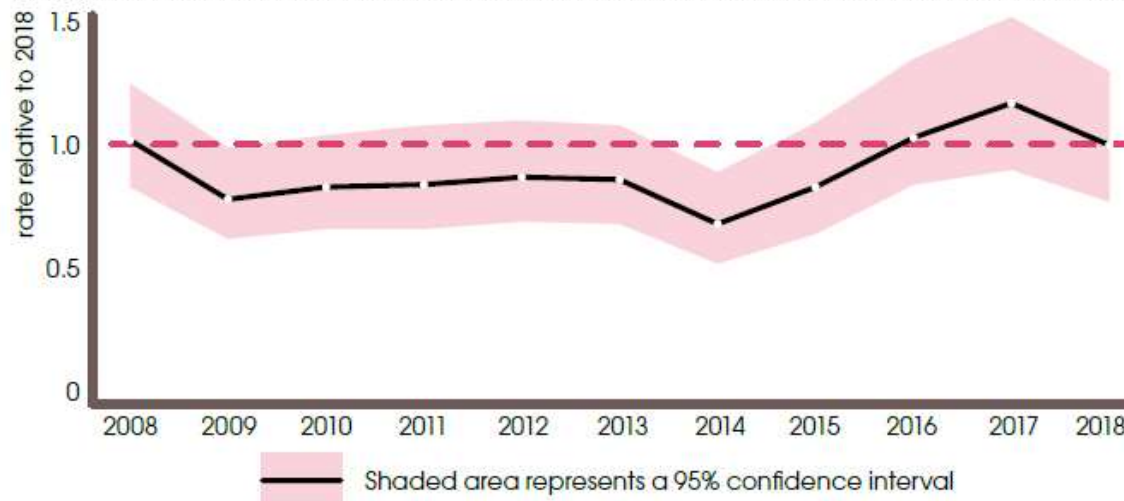
18,000

New cases of breathing or lung problems caused or made worse by work each year on average over the last three years according to self-reported estimates from the Labour Force Survey

Lung diseases contributing to estimated current annual deaths



Estimated rate of new cases of occupational asthma relative to 2018



There are projected to be around 2,500 mesothelioma deaths per year for the rest of the decade.

There were 132 new cases of occupational asthma seen by chest physicians in 2018, similar to the number 10 years ago.

Occupational lung diseases account for around 12,000 of the 13,000 total deaths estimated to be linked to past exposures at work.

To find out the story behind the key figures, visit www.hse.gov.uk/statistics/causdis/

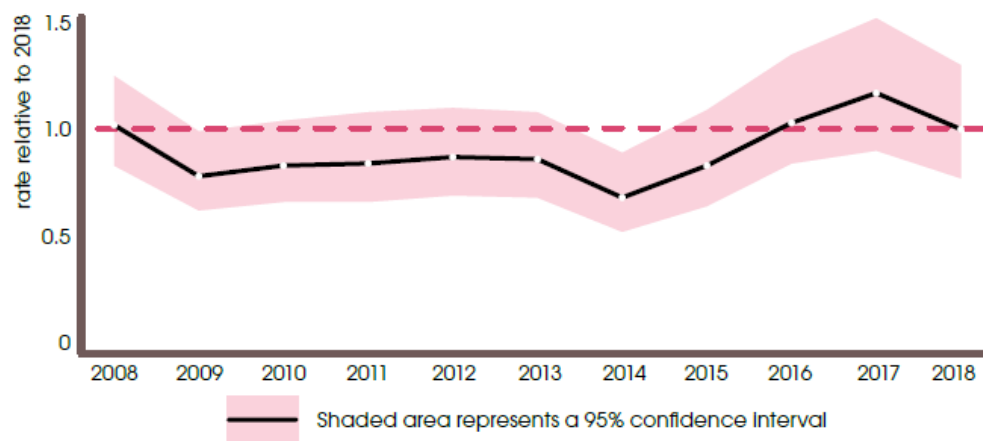
(職業性の肺疾病)

(資料作成者注：前ページの *Occupational lung disease* (職業性の肺疾病) の数字、グラフの説明については、次の三段表として、「英語原文—日本語仮訳」を掲載してあります。)

左欄の統計数字	中欄のグラフ等	右欄の説明												
<p>12,000 人、 職場でのばく露と関連していると見積られる毎年の肺疾病死亡 (の数)</p> <p>2,526 人、 2017 年における中皮腫の死亡、過去の石綿へのばく露と関連している肺がんによる死亡もほぼ同数です。</p> <p>18,000 人、 労働力調査からの自己申告による過去3年間の平均としての毎年の作業が原因の新</p>	<p>Lung diseases contributing to estimated current annual deaths</p> <p>(資料作成者説明) ○現在毎年の推定された死亡に寄与している肺疾病 (前ページ左の円グラフの割合。割合の多い順に並べてあります。)</p> <table border="1" data-bbox="658 1062 1469 1361"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>慢性の肺障害疾病 (COPD)</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>石綿以外の要因が関連する肺がん</td> <td>23%</td> </tr> <tr> <td>石綿関連の肺がん</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>中皮腫</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>他の疾病</td> <td>3%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合 (%)	慢性の肺障害疾病 (COPD)	33%	石綿以外の要因が関連する肺がん	23%	石綿関連の肺がん	20%	中皮腫	20%	他の疾病	3%	<p>残りの数十年間についての毎年の中皮腫による死亡は、おおよそ 2,500 人と推計されています。</p> <p>2018年に胸部内科医によって観察された新たな職業性喘息が、132 件あって、10年前と同様です。</p> <p>過去の職場でのばく露と結び付いていると推計される 13,000 件の死亡のうち職業性の肺疾病がおおよそ 12,000 件を占めます。</p> <p>鍵となる数字に関する説明は、 www.hse.gov.uk/statistics/causdis/を参照して下さい。</p>
区分	割合 (%)													
慢性の肺障害疾病 (COPD)	33%													
石綿以外の要因が関連する肺がん	23%													
石綿関連の肺がん	20%													
中皮腫	20%													
他の疾病	3%													

たな呼吸器疾病又は増悪する肺疾病の推計値

Estimated rate of new cases of occupational asthma relative to 2018



○職業性の喘息；2018年に関連する新規の職業性喘息の発生率の推計値

(参考：資料作成者注) 日本における石綿による職業上の肺がん又は中皮腫の労災補償状況

日本においても石綿による中皮腫及び肺がんの労災認定の状況は、大きな問題です。過去5年間（平成24年度（2012年度）から平成30年度（2018年度））におけるこれらの状況に関しては、厚生労働省が2019年6月19日に次のとおり公表しています。

[原典の所在]：https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000212928_00001.html

[原典の標題]：「平成30年度 石綿による疾病に関する労災保険給付などの請求・決定状況まとめ（速報値）」を公表します。」

表1 労災保険法に基づく保険給付の石綿による疾病別請求・決定状況（過去5年度分）

(件)

区 分		年 度				
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
肺がん	請求件数	465	414	427	443	413
	決定件数	443	414	431	387	437
	うち支給決定件数 (認定率)	391 (88.3%)	363 (87.7%)	387 (91.8%)	335 (86.6%)	376 (86.0%)
中皮腫	請求件数	561	578	595	571	648
	決定件数	556	568	552	584	564
	うち支給決定件数 (認定率)	529 (95.1%)	539 (94.9%)	540 (97.8%)	564 (96.6%)	533 (94.5%)



Workplace injury

147

Workers killed at work in 2018/19

581,000

workers sustaining a non-fatal injury according to self-reports from the Labour Force Survey in 2018/19

69,208

Employee non-fatal injuries reported by employers under RIDDOR in 2018/19

4.7 million

Estimated working days lost due to non-fatal workplace injuries according to self-reports from the Labour Force Survey in 2018/19

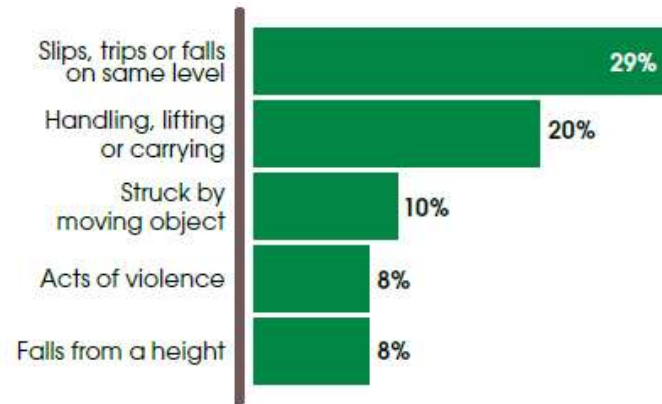
Estimated self-reported non-fatal injuries, 2018/19

138,000
Injuries with over 7 days absence

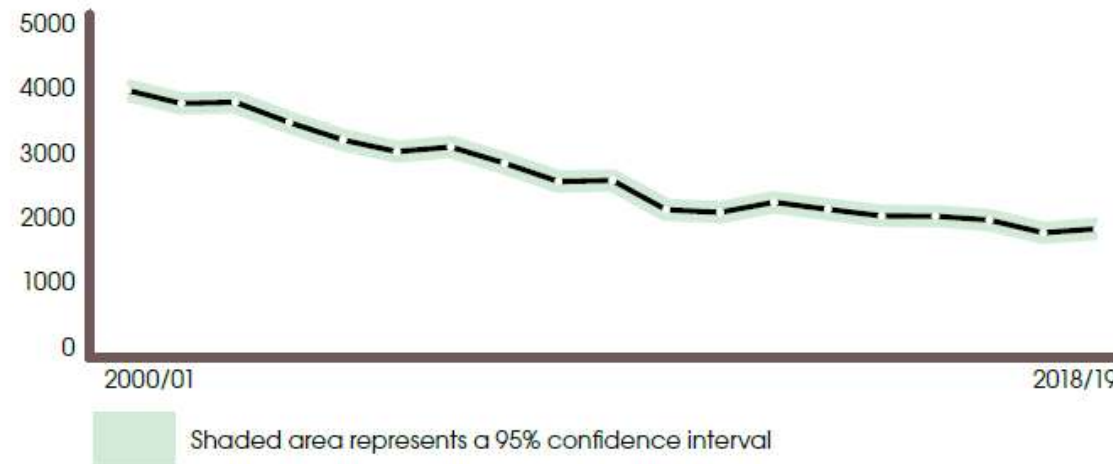


443,000
Injuries with up to 7 days absence

Non-fatal injuries to employees by most common accident kinds (as reported by employers), 2018/19



Estimated self-reported workplace non-fatal injury per 100,000 workers



The rate of fatal injury showed a long-term downward trend but has been broadly flat in recent years.

The rate of self-reported non-fatal injury to workers shows a downward trend.

The rate of non-fatal injury to employees reported by employers shows a downward trend.

Estimates of non-fatal injuries are based on self-reports from the Labour Force Survey (LFS).

To find out the story behind the key figures, visit www.hse.gov.uk/statistics/causinj/

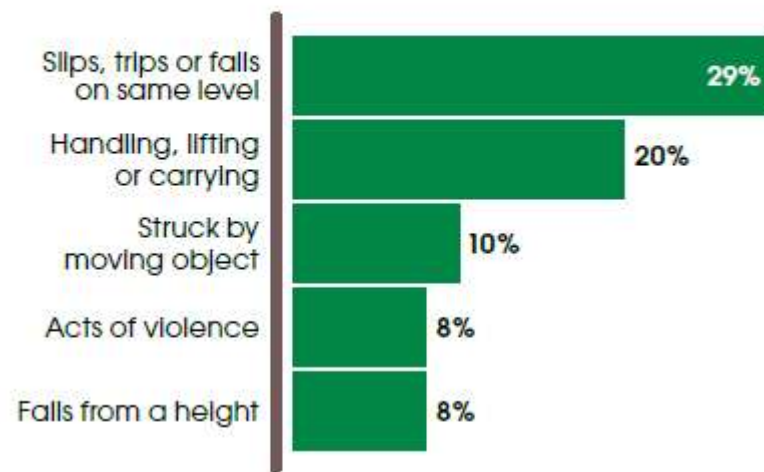
(作業場での傷害)

(資料作成者注：前ページの *Workplace injury* (作業場での傷害) の数字、グラフの説明については、次の三段表として、「英語原文—日本語仮訳」を掲載してあります。)

左欄の統計数字	中欄のグラフ等	右欄の説明
<p>147 人</p> <p>(2018/19 における職場での死亡者数)</p> <p>(資料作成者注：144、2017/18 に職場で死亡した労働者)</p> <p>581,000 人、</p> <p>(2018/19 に労働力調査からの自己申告による非致命的な傷害を受けた人数の推計値)</p> <p>(資料作成者注：</p>	<p>Estimated self-reported non-fatal injuries, 2018/19</p> <p>138,000 Injuries with over 7 days absence</p>  <p>443,000 Injuries with up to 7 days absence</p> <p>(上の円グラフの資料作成者説明)</p> <p>2018/19 に自己申告された非致命的な傷害</p> <ul style="list-style-type: none"> • 7日を超える休業を伴う傷害 138,000 人 • 7日までの休業を伴う傷害 443,000 人 	<p>死亡災害の発生率は、長期的に減少する傾向を示していましたが、近年では幅広く横ばいです。</p> <p>労働者の自己申告による非致命的な傷害の発生率は、減少する傾向を示しています。</p> <p>使用者の報告による被雇用者の非致命的な災害の発生率は、減少の傾向にあります。</p> <p>非致命的な傷害の推計値は、労働力調査 (LFS) における自己報告に基づいています。</p> <p>これらの主要な統計数字の背後にある説明は、 www.hse.gov.uk/statistics/causdis/ を参照してください。</p>

555,000人、
2017/18に労働力調査からの自己申告による非致命的な傷害を受けた数の推計値)

Non-fatal injuries to employees by most common accident kinds (as reported by employers), 2018/19



(上の横棒グラフの資料作成者説明)

2018/19に(使用者から報告された)被雇用者の傷害をもたらした主要な事故の種類

事故の種類 (英語原文)	左欄の本語仮訳	割合 (%)
Slip, trip or fall on same level	同じ高さでの滑り、転倒又は落下	29
Handling, Lifting or carrying	荷の取扱い、荷揚げ/又は運搬	20
Struck by moving object	動いている物体に衝突された	10
Act of violence	暴力行為	8
Fall from a height	高所からの墜落	8

Estimated self-reported workplace non-fatal injury per 100,000 workers

69,208 人、

2018/19 に、

RIDDOR

(傷害、疾病及び危険事象の報告に関する規則)に基づく使用者から報告された非致命的な傷害のあった労働者 (の数)

(資料作成者注:

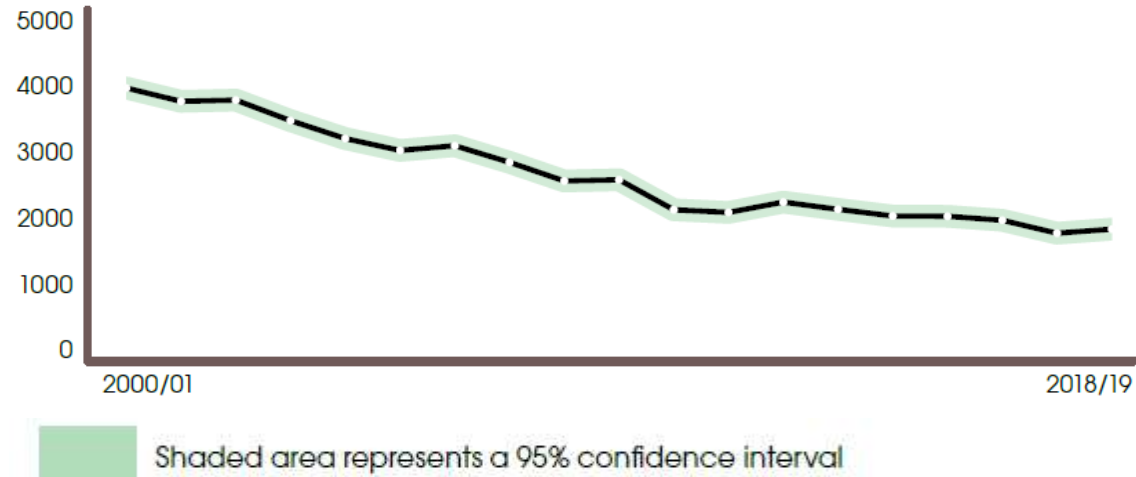
71,062 人、

2017/18 に RIDDOR

(傷害、疾病及び危険事象の報告に関する規則)に基づく使用者から報告された非致命的な傷害のあった労働者 (の数)

470 万日、

(労働者 100,000 人当たりの自己報告による傷害の推計値 (つまり発生率))



この色の部分は、95%信頼性区間を示します。

<p>2018/19 に労働力調査からの自己申告による、職場での非致命的な傷害による労働損失日数の推計値</p> <p>(資料作成者注： 390 万日、 2017/18 に労働力調査からの自己申告による、職場での非致命的な傷害による労働損失日数の推計値)</p>		
---	--	--



Costs to Britain

£15.0 billion

Annual costs of work-related injury and new cases of ill health in 2017/18, excluding long latency illness such as cancer

£9.8 billion

Annual costs of new cases of work-related ill health in 2017/18, excluding long latency illness such as cancer

£5.2 billion

Annual costs of workplace injury in 2017/18

Estimates based on Labour Force Survey and RIDDOR for 2016/17-2018/19, and HSE Costs to Britain model.

Costs to Britain of workplace injury and new cases of work-related ill health in 2017/18 by:
- type of incident

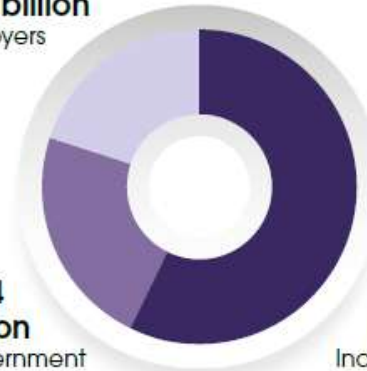
35%
Injury



65%
Ill health

- cost bearer

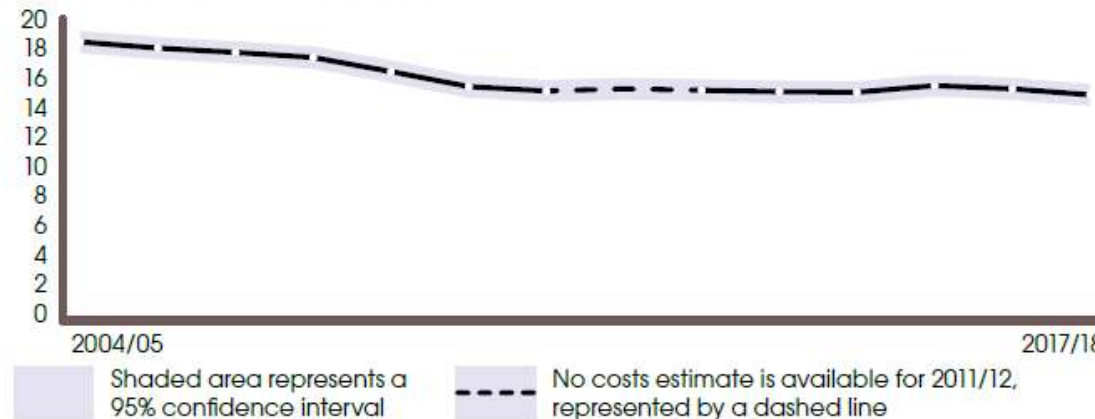
£3.0 billion
Employers



£3.4 billion
Government

£8.6 billion
Individuals

Costs to Britain of workplace injury and new cases of work-related ill health (£ billion, 2017 prices)



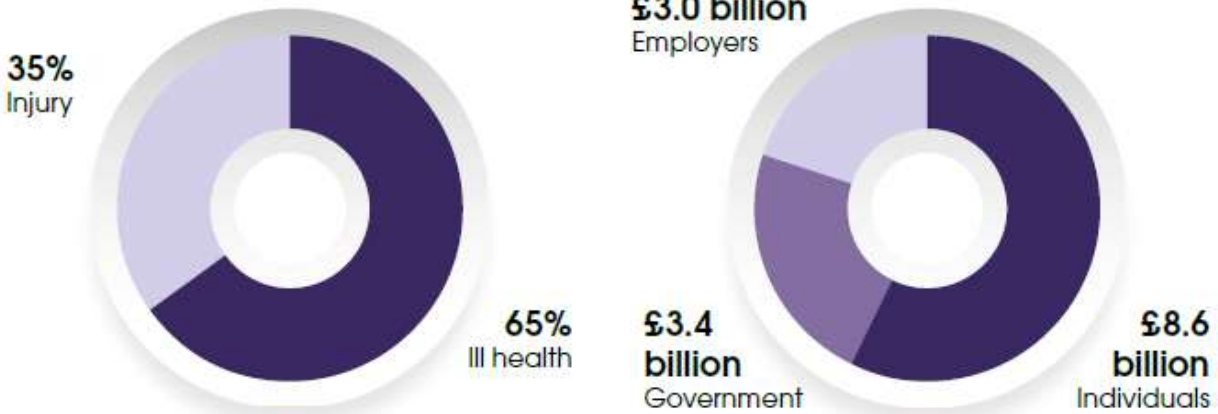
Total costs include financial costs and human costs. Financial costs cover loss of output, healthcare costs and other costs incurred. Human costs are the monetary valuation given to pain, grief, suffering and loss of life.

To find out the story behind the key figures, visit www.hse.gov.uk/statistics/cost.htm

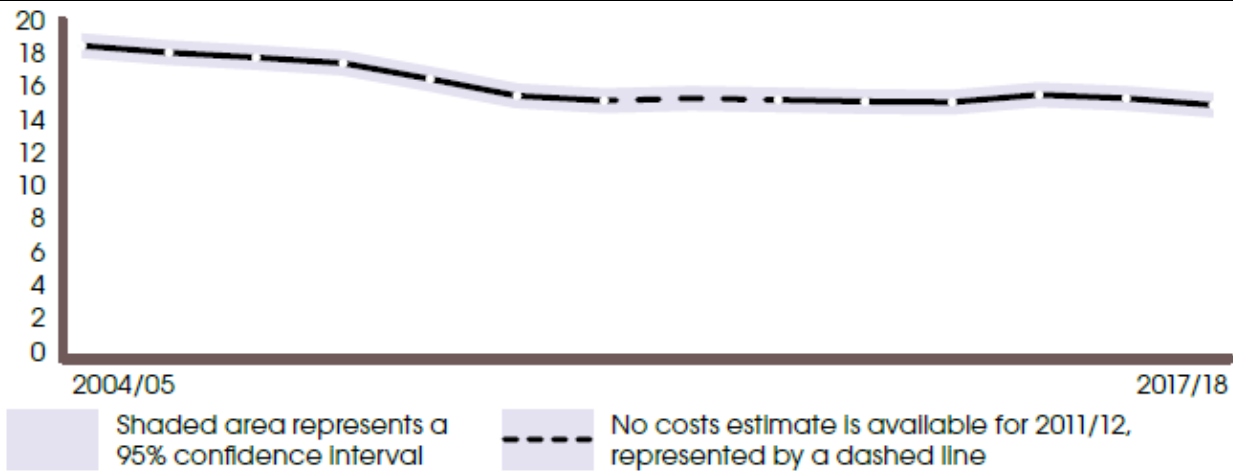
For estimates of the costs of work-related cancer in Great Britain, visit www.hse.gov.uk/research/rrhtm/n1074.htm



(ブリテンへのコスト)

(資料作成者注：前ページの *Costs to Britain* (ブリテンへのコスト) の数字、グラフの説明については、次の三段表として、「英語原文一日本語仮訳」を掲載してあります。)

左欄の統計数字	中央の欄のグラフ等	右欄の説明
<p>150 億ポンド、</p> <p>2018/19 における、がんのような長期間の遅発性のものを除く、作業関連の傷害及び疾病の年間コスト</p> <p>98 億ポンド、</p> <p>2017/18 における、がんのような長期間の遅発性のものを除く、作業関連の疾病の年間コスト</p>	<p>(資料作成者説明：事象別の 2016/17 の作業場での傷害及び新規の作業関連疾病のブリテンへのコスト)</p> <p>Costs to Britain of workplace injury and new cases of work-related ill health in 2016/17 by: - type of incident</p>  <p>35% Injury</p> <p>65% Ill health</p> <p>£3.0 billion Employers</p> <p>£3.4 billion Government</p> <p>£8.6 billion Individuals</p>	<p>コストの合計は、財政的なもの及び個人のコストを含みます。財政的なコストは、生み出されるべきものの喪失、医療コスト及び他の支払いを含んでいます。個人のコストは、痛み、悲しみ、苦しみ及び生命の損失を貨幣価値に評価したものです。</p>
	<p>(上の左側の円グラフの説明) 傷害が (コストの) 35%、疾病が (コストの) 65%</p> <p>(上の右側の円グラフの説明) 86 億ポンドが個人の負担、34 億ポンドが政府の負担、30 億ポンドが使用者の負担</p>	<p>これらの鍵となる統計数字の説明については、 www.hse.gov.uk/statistics/cost/htm</p>

<p>52 億ポンド、</p> <p>2017/18 における、 作業場での傷害の 年間コスト</p> <p>2016/17-2018/19 についての労働力 調査及び RIDDOR (傷害、疾病及び危 険事象の報告に関 する規則)及び HSE のコストに関する ブリテンモデルに 基づく推計値</p>		<p>を参照して下さい。</p> <p>グレートブリテンにおける作業 関連性のがんのコストの推計値 については、 www.hse.gov.uk/research/rrhtm/rr1074.htm を参照して下さい。</p>
	<p>Costs to Britain of workplace injury and new cases of work-related ill health (£ billion, 2017 prices)</p> <p>(資料作成者説明：作業場の傷害及び新規の作業関連疾病のブリテンに与えるコスト： 単位 10 億ポンド、2017 年の価値に換算)</p>	

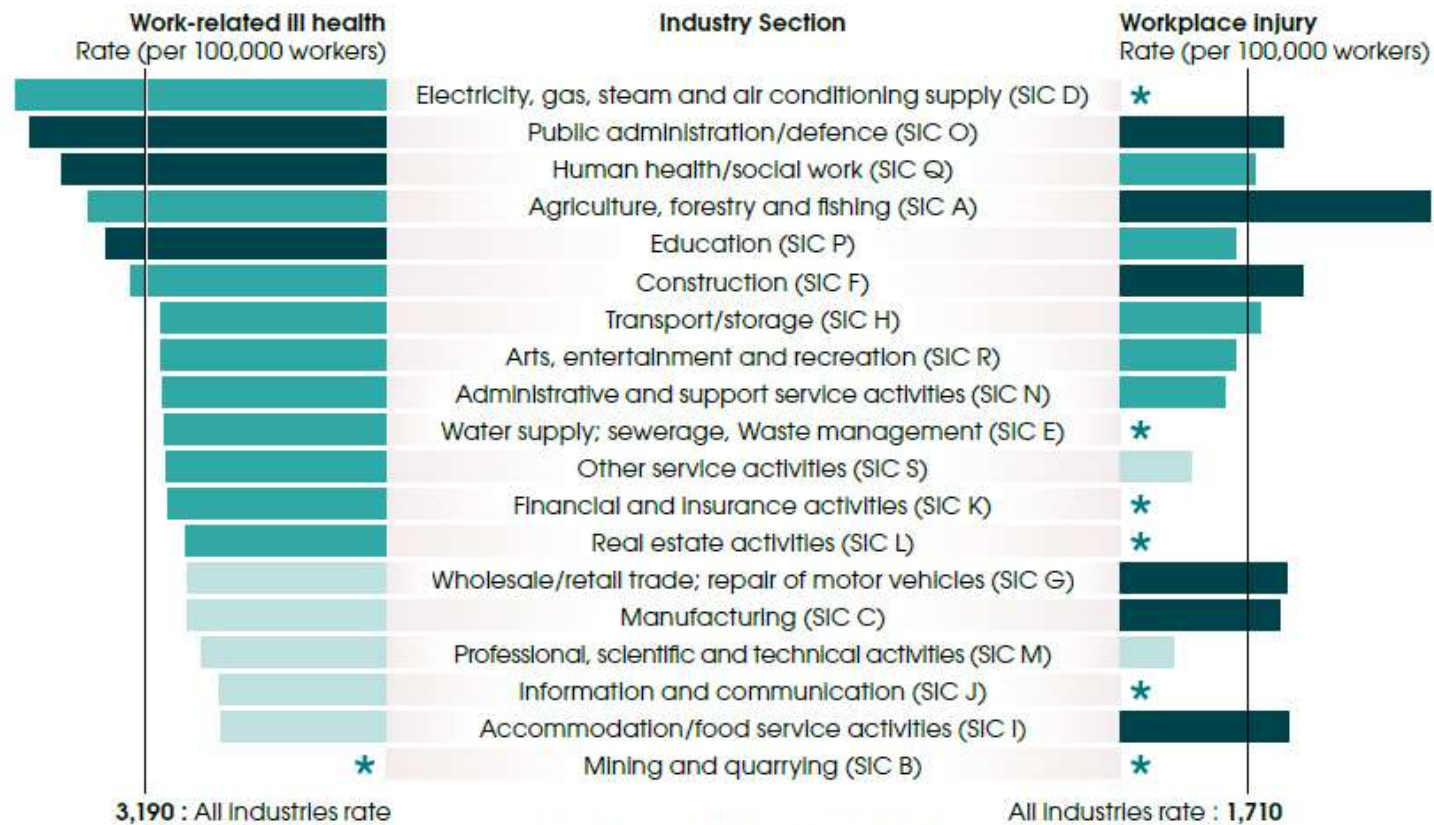


	この色の部分は、95%の信頼性区間を示します。
	点線の部分は、2011/12 にはコストの推計値がなされなかったことを示します。



Industries

Rate of self-reported work-related ill health and non-fatal injury by industry



Compared to all Industry rate:

- statistically significant - higher
- no statistically significant difference
- statistically significant - lower

* Indicates sample cases too small to provide reliable estimate

Source: Labour Force Survey annual average estimate 2016/17-2018/19




Industries with ill health rates statistically significantly higher than the rate for all industries were Public administration and defence, Human health and social work and Education.

Agriculture, forestry and fishing, Construction, Accommodation and food service activities, Wholesale and retail trade (including motor vehicle repair), Public administration and defence and Manufacturing had statistically significantly higher injury rates than for all industries.

To find out the story behind the key figures, visit www.hse.gov.uk/statistics/industry

(自己報告による作業関連の疾病及び非致命的な傷害の産業別の発生率)

(資料作成者注：前ページの *Industries (Rate of self-reported work-related ill health and non-fatal injury by industry* : 産業別 (自己報告による作業関連の疾病及び非致命的な傷害の産業別の発生率) については、次の三段表として、「英語原文一日本語仮訳」を掲載してあります。)

左欄 作業関連疾病 (労働者 100,000 人当たり) の発生率	産業分類 (別記の表を参照して下さい。)	右欄 作業場での傷害 (労働者 100,000 人当たり) の 発生率
All industries rate: 3,190 (全産業の発生率 3,190)		All industries rate: 1,710 (全産業の傷害 (労働者 100,000 人当たり) の 発生率
Compared to all industry rate:	全産業の発生率との比較	(右欄の日本語仮訳)
 statistically significant - higher	統計的に有意に高い。	全産業についての発生率より統計的に有意に 高い疾病発生率である業種は、公務行政及び国 防、医療及び社会福祉業並びに教育です。 ----- 農業、林業及び水産業、建設業、宿泊及び食品 サービス、卸売り小売業(自動車修理業を含 む。)、公務行政及び国防並びに製造業は、全産 業についての発生率よりも統計的に有意に高 い傷害発生率です。 ----- これらの鍵となる統計数字の説明については、 www.hse.gov.uk/statistics/industry を参照して下さい。
 no statistically significant difference	統計的に有意な差はない。	
 statistically significant - lower	統計的に有意に低い。	
★	信頼できる推計値を出すにはサンプル数があ まりにも小さい。	
Source	資料出所：労働力調査年間平均 2015/16 - 2017/18	

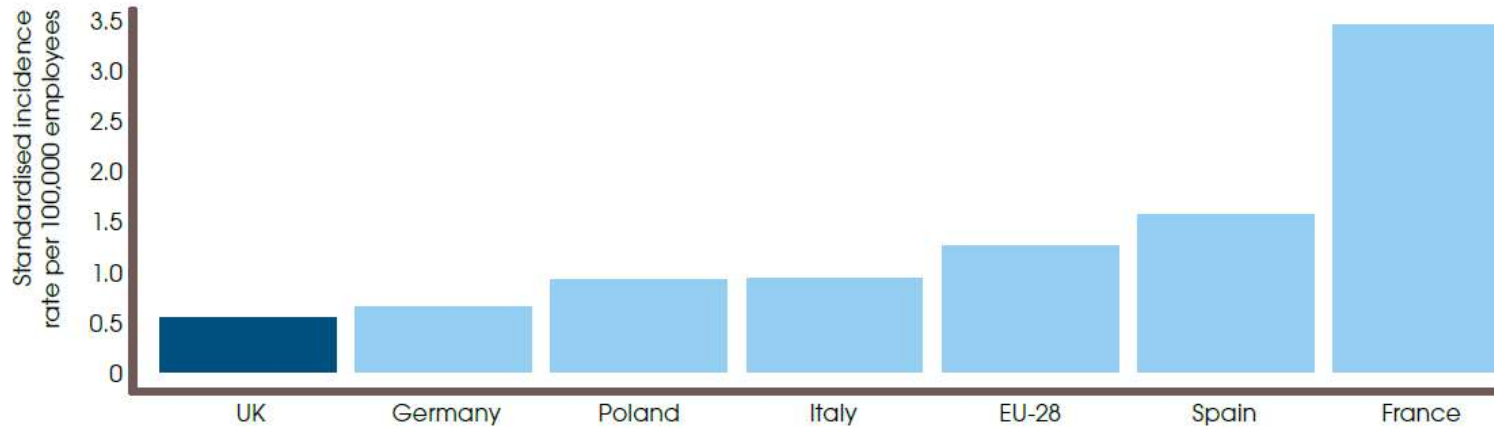
(別記した産業分類)

Industry Section 英語原文 (資料作成者注：以下の欄における“SIC”とは、英国における標準産業分類を意味する。)	左欄の日本語仮訳
Electricity, gas, steam and air conditioning supply (SIC D)	電気、ガス、蒸気及び空調供給業 (SIC D)
Public administration/defence (SIC O)	公務行政/国防(SIC O)
Human health and social work activities (SIC Q)	医療業及び社会福祉業(SIC Q)
Agriculture, forestry and fishing (SIC A)	農林水産業(SIC A)
Education (SIC P)	教育業(SIC P)
Construction (SIC F)	建設業(SIC F)
Transport/storage (SIC H)	運輸/倉庫業(SIC H)
Arts, entertainment and recreation (SIC R)	芸術、娯楽及びレクリエーション業(SIC R)
Administrative and support service activities (SIC N)	管理及び支援サービス業(SIC N)
Water supply/waste management (SIC E)	水道供給/廃棄物処理業(SIC E)
Other service activities (SIC S)	他のサービス業(SIC S)
Financial and insurance activities (SIC K)	金融及び保険業(SIC K)
Real estate activities (SIC L)	不動産業(SIC L)
Wholesale/retail trade (SIC G)	卸売及び小売業(SIC G)
Manufacturing (SIC C)	製造業(SIC C)
Professional, scientific and technical activities (SIC M)	専門的、科学的及び技術的活動業(SIC M)
Information and communication (SIC J)	情報及びコミュニケーション業(SIC J)
Accommodation/food service activities (SIC I)	宿泊/食品サービス業(SIC I)
Mining and quarrying (SIC B)	鉱業及び採石業 (SIC B)



European comparisons

Fatal injuries in large EU economies (Eurostat 2016)

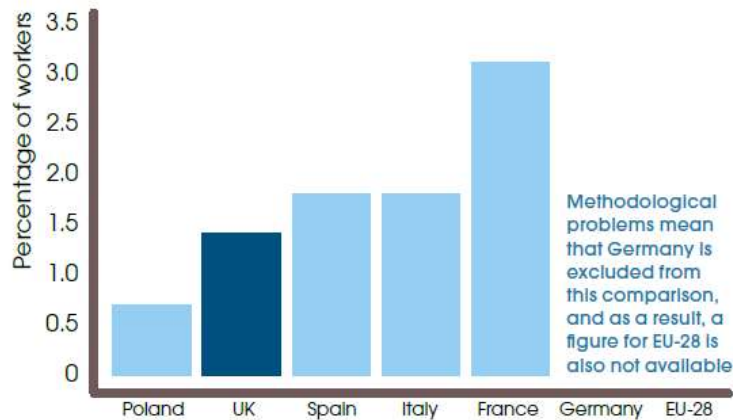


The UK consistently has one of the lowest standardised rates of fatal injury across the EU, lower than other large economies and the EU average.

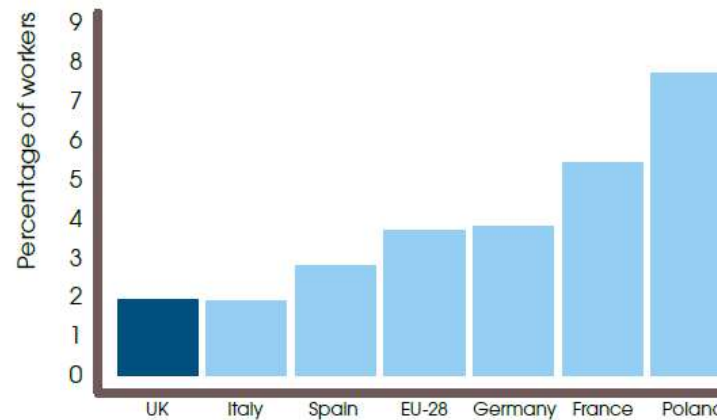
Non-fatal injuries in the UK were at a similar level to other large economies in 2013.

UK rates of work-related ill health resulting in sick leave were lower than most other EU countries.

Self-reported work-related injuries resulting in sick leave (EU Labour Force Survey 2013)



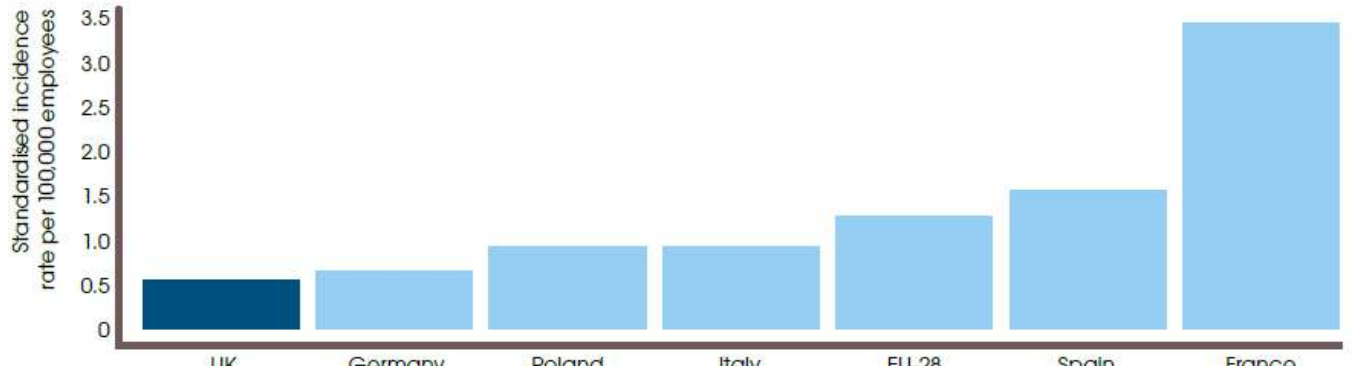
Self-reported work-related health problems resulting in sick leave (EU Labour Force Survey 2013)

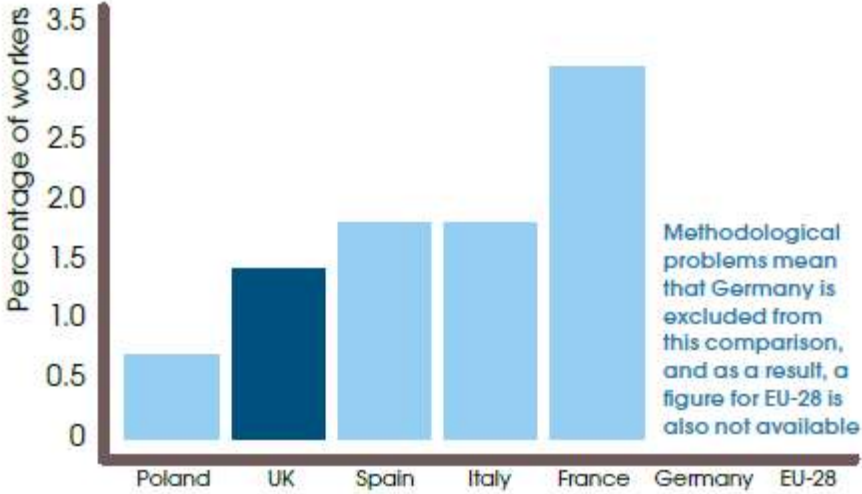


To find out the story behind the key figures, visit www.hse.gov.uk/statistics/european/

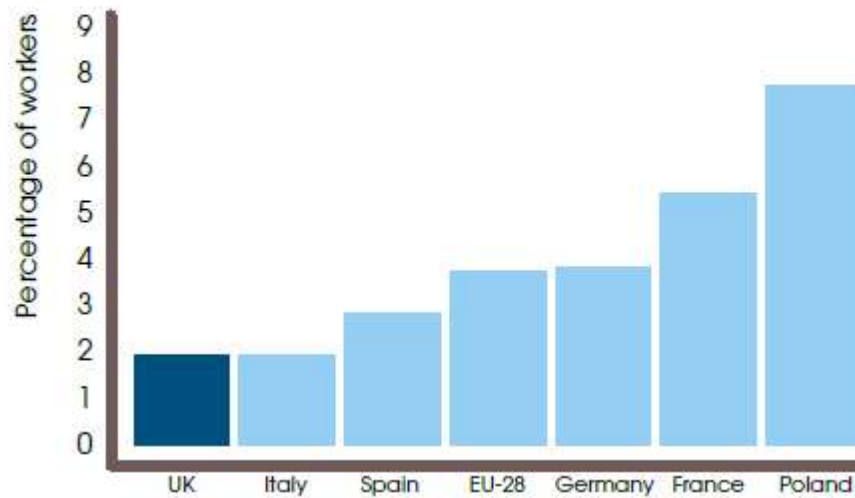
(ヨーロッパとの比較)

(資料作成者注：前ページの *European comparisons* (ヨーロッパとの比較) の数字、グラフの説明については、次の三段表として、「英語原文—日本語仮訳」を掲載してあります。)

左欄の説明	中央の欄の棒グラフ	右欄の説明																
<p>被雇用者 100,000人当 たりの標準 化された死 亡率</p>	<p>Fatal injuries in large EU economies (Eurostat 2016) (資料作成者説明：EU諸国中の大きな経済を持つ国の死亡傷害 (ユーロスタット 2016年) 縦軸は、被雇用者10万人当たりの標準化された発生率)</p>  <table border="1" data-bbox="344 558 1700 925"> <caption>Standardized incidence rate per 100,000 employees (Estimated from chart)</caption> <thead> <tr> <th>Country/Region</th> <th>Standardized incidence rate per 100,000 employees</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>UK</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>Germany</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>Poland</td> <td>0.9</td> </tr> <tr> <td>Italy</td> <td>0.9</td> </tr> <tr> <td>EU-28</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>Spain</td> <td>1.6</td> </tr> <tr> <td>France</td> <td>3.4</td> </tr> </tbody> </table>	Country/Region	Standardized incidence rate per 100,000 employees	UK	0.5	Germany	0.7	Poland	0.9	Italy	0.9	EU-28	1.3	Spain	1.6	France	3.4	<p>連合王国 (英国) は、一貫して、EU 全体を通じて最も低い標準化死亡率の国の一つであり、大きな経済主体である他の加盟国及びEUの平均よりも低いです。</p> <p>連合王国 (英国) の非致命的傷害は、2013 年においては他の大きな経済主体の国々と同様の水準です。</p> <p>連合王国 (英国) の、作業関連疾病で病気休暇につながるものの発生率は、他のほとんどのEU諸国より低いです。</p> <p>これらの鍵となる統計数字の説明については、 www.hse.gov.uk/statistics/european/ を参照してください。</p>
Country/Region	Standardized incidence rate per 100,000 employees																	
UK	0.5																	
Germany	0.7																	
Poland	0.9																	
Italy	0.9																	
EU-28	1.3																	
Spain	1.6																	
France	3.4																	

<p>労働者の割合 (%)</p>	<p>(資料作成者説明：結果として病気欠勤を伴う自己報告による作業関連傷害 (EU 労働力調査 2013))</p> <p>Self-reported work-related injuries resulting in sick leave (EU Labour Force Survey 2013)</p>  <table border="1"> <caption>Self-reported work-related injuries resulting in sick leave (EU Labour Force Survey 2013)</caption> <thead> <tr> <th>Country</th> <th>Percentage of workers</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Poland</td> <td>~0.7</td> </tr> <tr> <td>UK</td> <td>~1.4</td> </tr> <tr> <td>Spain</td> <td>~1.8</td> </tr> <tr> <td>Italy</td> <td>~1.8</td> </tr> <tr> <td>France</td> <td>~3.1</td> </tr> <tr> <td>Germany</td> <td>Excluded (Methodological problems)</td> </tr> <tr> <td>EU-28</td> <td>Excluded (Methodological problems)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(資料作成者説明：病欠の結果として作業関連の健康問題をもたらす自己報告 (EU 労働力調査 2013))</p> <p>(左の指標：労働者の割合%) (下欄：ポーランド、連合王国 (UK)、スペイン、イタリア、フランス (ドイツは方法論の問題からこの分析から除かれ、その結果として EU-28 のデータも利用できません。))</p>	Country	Percentage of workers	Poland	~0.7	UK	~1.4	Spain	~1.8	Italy	~1.8	France	~3.1	Germany	Excluded (Methodological problems)	EU-28	Excluded (Methodological problems)	
Country	Percentage of workers																	
Poland	~0.7																	
UK	~1.4																	
Spain	~1.8																	
Italy	~1.8																	
France	~3.1																	
Germany	Excluded (Methodological problems)																	
EU-28	Excluded (Methodological problems)																	

Self-reported work-related health problems resulting in sick leave (EU Labour Force Survey 2013)



(資料作成者説明)

病気欠勤をもたらす自己報告された作業関連の健康問題 (EU 労働力調査 2013 年)

(左欄の指標：労働者の割合 (%))

(下欄の国名)

連合王国 (UK)

イタリア

スペイン

EU28 か国平均

ドイツ

フランス

ポーランド

(資料作成者注)

I EUROSTAT (欧州統計局) が2019年10月9日に公表したEU加盟国のうち、英国、ドイツ、イタリア、ポーランド、EU28カ国平均、スペイン及びフランスについての労働災害発生率

I-1 労働者10万人当たりの致命的(死亡)災害発生率(資料作成者注:この記述に照らして、European Union (Eurostat)が、2019年10月9日に更新したデータベース (https://appsso.eurostat.ec.europa.eu/nui/show.do?dataset=hsw_n2_02&lang=en) を検索してみた結果では、Standardised incidence rates (per 100,000 employees) of fatal injuries at work for 2016 のデータは見出せませんでした。HSE がここで紹介しているデータは、HSE が European Union (Eurostat) から独自に提供されたものであると思われます。)のうち、上の棒グラフがある英国、ドイツ、イタリア、ポーランド、EU28カ国平均、スペイン及びフランスの労働者10万人当たりの最近3カ年(2015年、2017年、2017年)の致命的(死亡)災害発生率は、次の表のとおりです。

年別/国別	英国	ドイツ	イタリア	ポーランド	EU28カ国平均	スペイン	フランス
2015年	0.83	1.02	2.42	1.89	1.83	2.3	2.57
2016年	0.8	0.96	2.11	1.54	1.69	1.92	2.74
2017年	0.88	0.89	2.1	2	1.65	1.99	2.64p

(資料作成者の注:この表の2017年フランスについての“p”は、暫定値であることを示しています。)

I-2 労働者10万人当たりの非致命的災害(休業4日以上)発生率(ただし、標準化されたものは見当たりません。)のうち、棒グラフは示されていませんが、英国、ドイツ、イタリア、ポーランド、EU28各国平均、スペイン及びフランスの労働者10万人当たりの最近3カ年(2015年、2017年、2017年)の非致命的災害(休業4日以上)の発生率は、European Union (Eurostat)が、2019年10月9日に更新したデータベース (https://appsso.eurostat.ec.europa.eu/nui/show.do?dataset=hsw_n2_02&lang=en) により上記I-1と同様に検索してみた結果では、次の表のとおりでした。

年別/国別	英国	ドイツ	イタリア	ポーランド	EU28カ国平均	スペイン	フランス
2015年	760.37	1,930.57	1,313.89	509.08	1,535.09	2,767.5	3,160.29
2016年	721.87	1,950.91	1,300.51	532.04	1,570.84	2,807.18	3,458.28
2017年	710.6	1,819.55	1,277.69	625.19	1,557.85	2,842.41	3,395.93(b)

(資料作成者の注:この表の2017年フランスについての“b”は、時系列的な不連続があることを示しています。)

II 致命的な労働災害（つまり死亡災害）の発生率についての日本及びアメリカ合衆国の関連するデータ

国別	統計の対象年 (年度)	労働災害統計の指標の種類及び関係するデータ	左欄の指標に関する留意事項	資料出所														
日本	2013年～ 2018年	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="477 368 577 464">年</th> <th data-bbox="577 368 1115 464">労働者 10 万人当たりの死亡災害発生数 (試算の方法は、別記を参照して下さい。)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="477 464 577 512">2013</td> <td data-bbox="577 464 1115 512">2.07</td> </tr> <tr> <td data-bbox="477 512 577 560">2014</td> <td data-bbox="577 512 1115 560">2.11</td> </tr> <tr> <td data-bbox="477 560 577 608">2015</td> <td data-bbox="577 560 1115 608">1.92</td> </tr> <tr> <td data-bbox="477 608 577 655">2016</td> <td data-bbox="577 608 1115 655">1.80</td> </tr> <tr> <td data-bbox="477 655 577 703">2017</td> <td data-bbox="577 655 1115 703">1.87</td> </tr> <tr> <td data-bbox="477 703 577 751">2018</td> <td data-bbox="577 703 1115 751">1.69</td> </tr> </tbody> </table>	年	労働者 10 万人当たりの死亡災害発生数 (試算の方法は、別記を参照して下さい。)	2013	2.07	2014	2.11	2015	1.92	2016	1.80	2017	1.87	2018	1.69	<ul style="list-style-type: none"> ● 労働健康安全法に基づく報告義務のない公務従事者は、除外されています。 ● 道路交通災害を含みます。 	死亡災害報告、総務省労働力調査に基づき試算（別記参照）
年	労働者 10 万人当たりの死亡災害発生数 (試算の方法は、別記を参照して下さい。)																	
2013	2.07																	
2014	2.11																	
2015	1.92																	
2016	1.80																	
2017	1.87																	
2018	1.69																	
アメリカ合衆国	2012年～ 2016年	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="432 783 533 967">年</th> <th data-bbox="533 783 1205 967">フルタイム等価労働者換算（<i>equivalent full-time workers</i>：以下同じ。）10万人当たり。下欄で別に明示しない限り公務従事者等を含む全労働者についての発生率です。</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="432 967 533 1062">2012</td> <td data-bbox="533 967 1205 1062">3.4 そのうち、民間産業については、3.6</td> </tr> <tr> <td data-bbox="432 1062 533 1158">2013</td> <td data-bbox="533 1062 1205 1158">3.3 そのうち、民間産業については、3.5</td> </tr> <tr> <td data-bbox="432 1158 533 1254">2014</td> <td data-bbox="533 1158 1205 1254">3.4 そのうち、民間産業については、3.7</td> </tr> <tr> <td data-bbox="432 1254 533 1350">2015</td> <td data-bbox="533 1254 1205 1350">3.4 そのうち、民間産業については、3.6</td> </tr> </tbody> </table>	年	フルタイム等価労働者換算（ <i>equivalent full-time workers</i> ：以下同じ。）10万人当たり。下欄で別に明示しない限り公務従事者等を含む全労働者についての発生率です。	2012	3.4 そのうち、民間産業については、3.6	2013	3.3 そのうち、民間産業については、3.5	2014	3.4 そのうち、民間産業については、3.7	2015	3.4 そのうち、民間産業については、3.6	<ul style="list-style-type: none"> ● 左欄では公務従事者（アメリカ合衆国内の軍関係者を含む。）が含まれています。 ● いずれも道路交通災害を含みます。 	News release, Bureau of labor Statistics, U.S. DEPARTMENT OF LABOR NATIONAL CENSUS OF FATAL OCCUPATIONAL INJURIES IN 2015				
年	フルタイム等価労働者換算（ <i>equivalent full-time workers</i> ：以下同じ。）10万人当たり。下欄で別に明示しない限り公務従事者等を含む全労働者についての発生率です。																	
2012	3.4 そのうち、民間産業については、3.6																	
2013	3.3 そのうち、民間産業については、3.5																	
2014	3.4 そのうち、民間産業については、3.7																	
2015	3.4 そのうち、民間産業については、3.6																	

		2016	3.6 そのうち、民間産業については、3.8		
--	--	------	---------------------------	--	--

(日本についての資料作成者の注)

- 日本の2013年～2018年についての「労働者10万人当たりの死亡災害発生数」の推計方法及び結果

区分/人数 (単位万人)	2013	2014	2015	2016	2017	2018
① 全産業雇用者数 (年平均) 「長期時系列表5(4)産業 (第12・13回改定分類) 別雇用者数 - 全国」による。	5,567	5,613	5,663	5,613	5,819	5,936
② うち、役員を除く雇用者数 (年平均) 「長期時系列表10(1)年齢階級(10歳階級)別就業者数及び年齢階級(10歳階級), 雇用形態別雇用者数 - 全国」による。	5,213	5,256	5,303	5,391	5,460	5,596
③ うち、公務従事者数 (年平均) 「長期時系列表5(4)産業 (第12・13回改定分類) 別雇用者数 - 全国」による。	229	235	231	231	229	232
④ ②-③	4,984	5,021	5,072	5,160	5,231	5,364
⑤ 年間労働災害死亡者数 (公務従事者を除く。)	1,030	1,057	972	928	978	909
⑥ 「労働者10万人当たりの死亡災害発生数の推計」 = (⑤ ÷ (② - ③)) × 10	2.07	2.11	1.92	1.80	1.87	1.69

(日本についての資料出所)

- 「死亡者数(A) (厚生労働省労働基準局)」: 職場のあんぜんサイト <http://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/tok/anst00.htm> から抜粋しました。
- 「該当する年の雇用者数合計 (万人。資料出所: 総務省統計局) (B)」及び「左欄のうち、役員を除く雇用者数 (b)」: <http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.html> における「長期時系列表10(1)年齢階級(10歳階級)別就業者数及び年齢階級(10歳階級), 雇

用形態別雇用者数 - 全国」 <http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/zuhyou/lt52.xls> から抜粋しました。

- 「雇用者のうち、公務及び国防・義務的社会保障事業（国際分類の O に該当する）従事者数（単位万人）（C）（各年の平均）」：
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.html> における「長期時系列表 5 (4)産業（第 12・13 回改定分類）別雇用者数 - 全国」
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/zuhyou/lt05-06.xls> から抜粋しました。

Ⅲ 日本及びアメリカ合衆国の非致命的な労働災害の発生率

国別	統計の対象年 (年度)	労働災害統計の指標の種類及び関係する データ	左欄の指標に関する留意事項	資料出所												
日本	2013-17 年	日本における全産業死傷年千人率の推移 (休業 4 日以上及び死亡傷害が対象) <table border="1" data-bbox="555 582 1137 879"> <thead> <tr> <th>暦年</th> <th>死傷年千人率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2013 年</td> <td>2.3</td> </tr> <tr> <td>2014 年</td> <td>2.3</td> </tr> <tr> <td>2015 年</td> <td>2.2</td> </tr> <tr> <td>2016 年</td> <td>2.2</td> </tr> <tr> <td>2017 年</td> <td>2.2</td> </tr> </tbody> </table>	暦年	死傷年千人率	2013 年	2.3	2014 年	2.3	2015 年	2.2	2016 年	2.2	2017 年	2.2	<ul style="list-style-type: none"> 労働安全衛生法に基づく報告義務のない公務従事者は、除外されています。 道路交通災害を含みます。 通勤災害は、除外されています。 	労働者死傷病報告、総務省労働力調査に基づく厚生労働省公表資料
暦年	死傷年千人率															
2013 年	2.3															
2014 年	2.3															
2015 年	2.2															
2016 年	2.2															
2017 年	2.2															
アメリカ合衆国	2015 年	<p>① 回復するために職場からの休業を伴う非致命的な傷害及び疾病の全体の発生率については、2015 年にはフルタイム労働者 10,000 人当たり 104 件（年千人率に換算すると 10.4 件）で、2014 年の 107.1 件（年千人率に換算すると 10.71）よりも減少しました。</p> <p>②民間産業では、2015 年のフルタイム労働者 10,000 人当たりの発生件数は、93.9 件（年千人率に換算すると 9.39）で、2014 年の 97.8 件（年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 左欄の①では公務従事者（アメリカ合衆国内の軍関係者を含む。）が含まれています。 いずれも道路交通災害を含みます。 	アメリカ合衆国労働統計局 (Bureau of labor Statistics)												

	<p>2016年</p>	<p>千人率に換算すると 9.78)よりは減少しました。</p> <p>「2016年には、民間産業の使用者によって報告されたおおよそ 290 万件の非致死の傷害及び (職業性) 疾病があった。これらの発生率は、フルタイム換算労働者 100 人当たり 2.9 件 (フルタイム換算労働者 1,000 人当たりに換算すると 29) の発生率であった。」とされています。</p> <p>一方、日本の相当するデータをみますと、2016年における日本の労働者死傷病報告を基礎とする年千人率 (日本の場合は休業 4 日以上の災害で死亡災害を含んでいます。) は、2014 年、2015 年とも 2.3、2016 年にあっては 2.2 です。</p> <p>アメリカ合衆国における労働災害発生率は、休業 1 日以上のものを対象にしています、危険性の低い業種を除外しています、死亡災害を含んでいません、フルタイム労働者換算をしています等の違いがあります。それらの違いを勘案した場合、アメリカ合衆国では日本と比べて労働災害の発生確率は高いと考えられます。</p>		
--	--------------	--	--	--



Enforcement

364

Cases prosecuted, or referred to COPFS for prosecution in Scotland, by HSE where a conviction was achieved in 2018/19

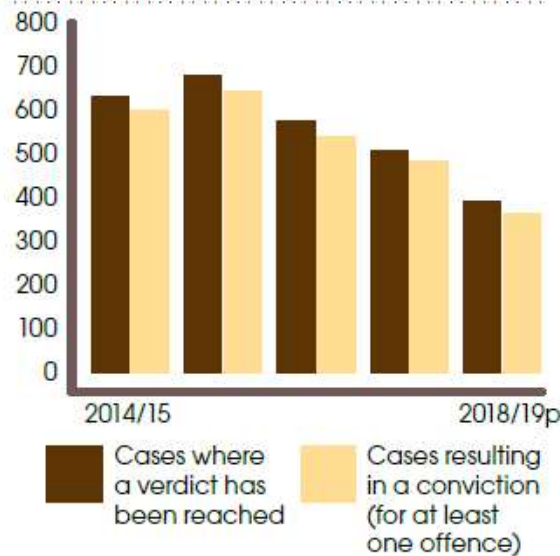
11,040

Notices issued by all enforcing bodies in 2018/19

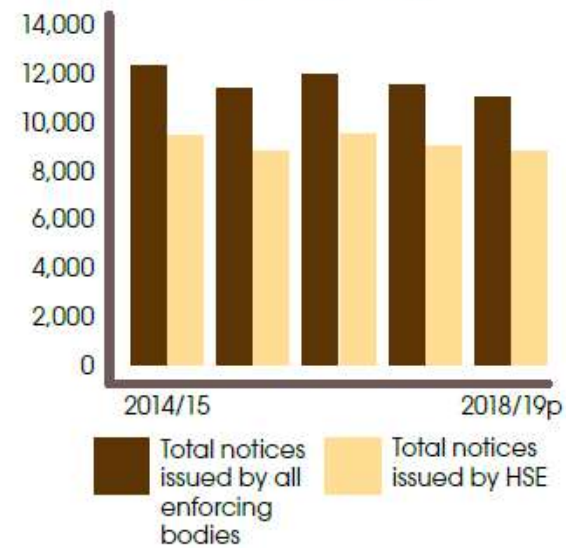
£54.5 million

In fines resulting from prosecutions taken, or referred to COPFS for prosecution in Scotland, by HSE where a conviction was achieved in 2018/19

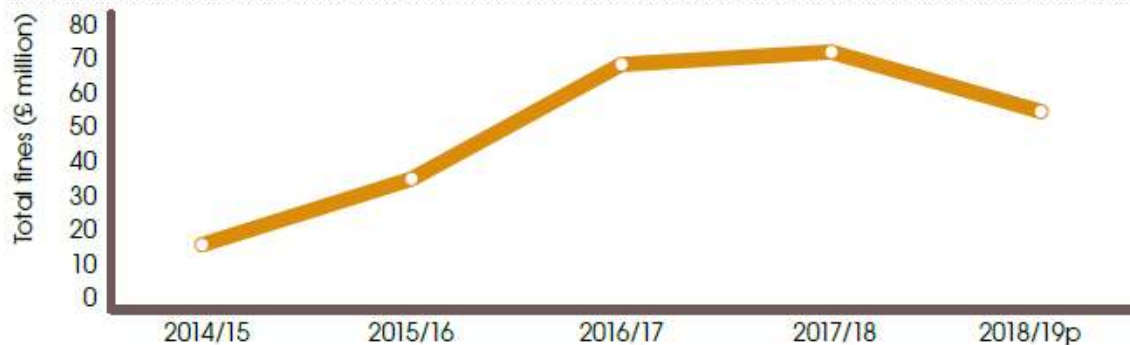
Prosecution cases brought by HSE and, in Scotland, COPFS



Enforcement notices issued by local authorities and HSE



Total fines for health and safety offences prosecuted by HSE and, in Scotland, the Crown Office and Procurator Fiscal Service (COPFS) (£million)



This year has seen a fall in the number of cases prosecuted, continuing the trend from the previous year.

The number of notices issued by all enforcing bodies showed a decrease compared to the previous year, continuing the long-term downward trend in notices issued.

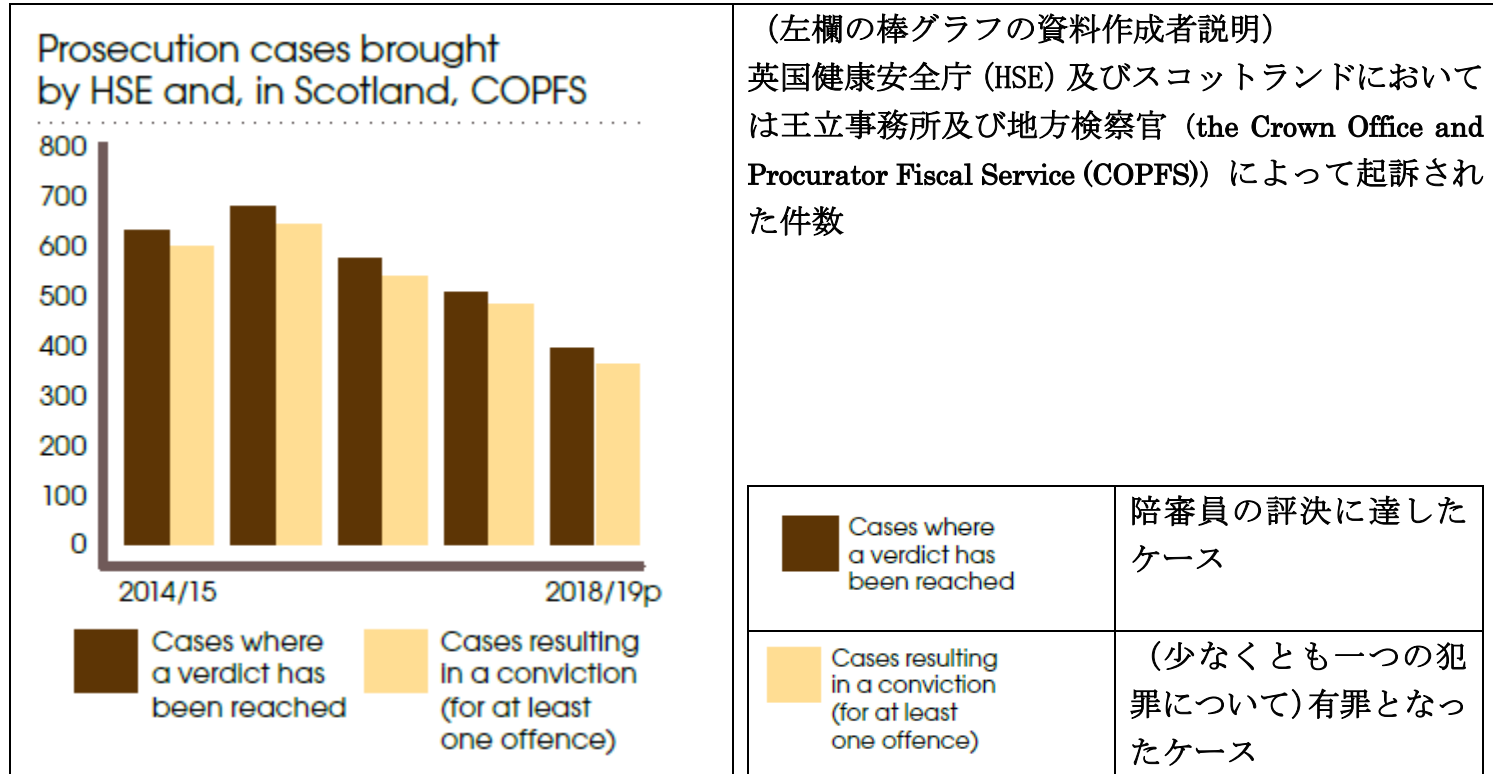
The level of fine issued in 2018/19 has decreased compared to the previous year. The average fine per conviction is at the same level as 2017/18 so this decrease is related to the fall in the number of cases completed.

To find out the story behind the key figures, visit www.hse.gov.uk/statistics/enforcement.htm

Enforcement (施行状況)

(資料作成者注：前ページの *Enforcement (施行状況)* の数字、グラフの説明については、次の三段表として、「英語原文—日本語仮訳」を掲載してあります。グラフ中の 19/p は、2019 年については暫定値である旨を示しています。)

別記の施行状況の数字を参照して下さい。



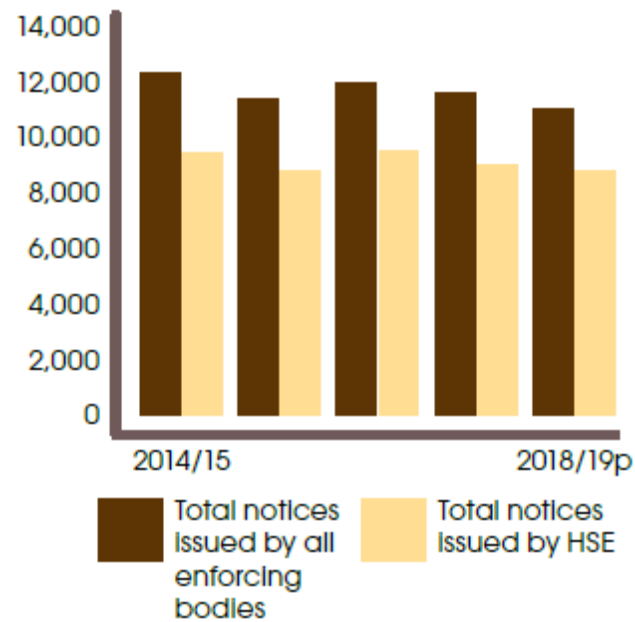
(前ページの右欄の説明)

- 今年は、前年からの減少傾向が続いて、訴追された件数は減少を見せました。
- 今年すべての法執行機関の (違反) 通告書発行件数は、発行された通告書における長期的な減少傾向を継続して前年に比べて減少を示しました。
- 2018/19 に課された罰金の水準は、前年と比較して、減少しました。有罪毎の平均の罰金は、2017/18 と同じ水準であるので、この現象は、完結した事件数の低下と関係しています。

これらの鍵となる統計数字の説明については、



www.hse.gov.uk/statistics/

Enforcement notices issued by local authorities and HSE



(資料作成者の左欄の棒グラフの説明)

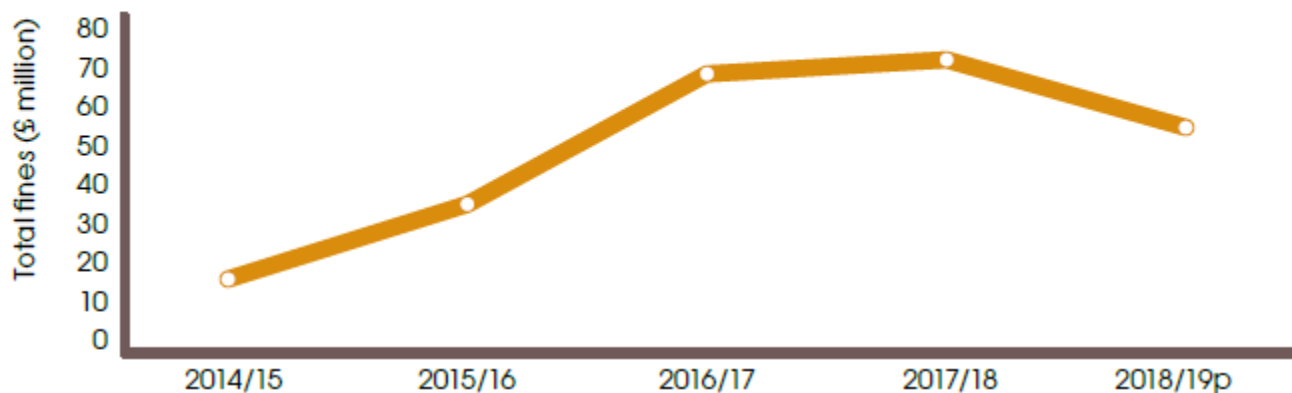
地方自治体及び英国健康安全庁 (HSE) が発行した施行通告書

 Total notices issued by all enforcing bodies	すべての法執行機関が発行した (違反) 通告書の数
 Total notices issued by HSE	英国健康安全庁 (HSE) によって発行された (違反) 通告書

[enforcement.htm](#)
を参照して下さい。

(資料作成者説明: 英国健康安全庁 (HSE) 及びスコットランドにおいては王立事務所及び地方検察官 (the Crown Office and Procurator Fiscal Service (COPFS)) によって訴追された健康安全違反の罰金の合計 (単位百万ポンド)

Total fines for health and safety offences prosecuted by HSE and, in Scotland, the Crown Office and Procurator Fiscal Service (COPFS) (£million)



(別記の施行状況の数字)

364 件

健康安全庁によって起訴され、又はスコットランドにおいては王立事務所及び地方検察官 (the Crown Office and Procurator Fiscal Service (COPFS)) に委ねられ、2018/19 に有罪判決が得られた件数

11,040 件

2018/19 にすべての執行機関から発行された違反通告書の数

5,450 万ポンド

健康安全庁によって起訴され、又はスコットランドにおいては王立事務所及び地方検察官 (the Crown Office and Procurator Fiscal Service (COPFS)) に委ねられ、2018/19 に有罪判決が得られた結果としての罰金の額



Sources

The Labour Force Survey (LFS)

The LFS is a national survey run by the Office for National Statistics. Currently around 37,000 households are surveyed each quarter. HSE commissions annual questions in the LFS to gain a view of self-reported work-related illness and workplace injury based on individuals' perceptions. The analysis and interpretation of these data are the sole responsibility of HSE.

The Reporting of Injuries, Diseases and Dangerous Occurrences Regulations (RIDDOR)

Requirements under which fatal, over-seven-day and specified non-fatal injuries to workers are reported by employers.

Specialist physician and general practitioner reporting (THOR)

Cases of work-related respiratory and skin disease are reported by specialist physicians within The Health and Occupation Research network (THOR).

Death Certificates

Some occupational lung diseases, including the asbestos-related diseases mesothelioma and asbestosis, can be identified from the recorded cause of death.

Enforcement

The enforcing authorities are HSE, local authorities and, in Scotland, The Crown Office and Procurator Fiscal Service (COPFS). In Scotland, HSE and local authorities investigate potential offences but cannot institute legal proceedings and the COPFS makes the final decision on whether to institute legal proceedings and which offences are taken.

HSE Costs to Britain Model

Developed to estimate the economic costs of injury and new cases of ill health arising largely from current working conditions. The economic cost estimate includes both financial and human costs.

Eurostat

Eurostat (the statistical section of the European Commission) publishes data on fatal accidents at work. Fatality rates are standardised to take account of the different industrial structure of employment across European Union member states, and exclude road traffic accidents and accidents on board of any means of transport in the course of work.

European Labour Force Survey (EU-LFS)

A large household survey carried out in the Member States of the European Union. In 2013 the EU-LFS included an ad-hoc module asking about accidents at work and work-related health problems in the previous 12 months.

More information about our data sources can be found at www.hse.gov.uk/statistics/sources.htm

◎Sources(資料出所)

Sources	資料出所
<p>The Labour Force Survey (LFS) The LFS is a national survey run by the Office for National Statistics. Currently around <u>37,000</u> households are surveyed each quarter. HSE commissions annual questions in the LFS to gain a view of self-reported work-related illness and workplace injury based on individuals' perceptions. The analysis and interpretation of the data are the sole responsibility of HSE.</p> <p>The Reporting of Injuries, Diseases and Dangerous Occurrences Regulations (RIDDOR) Requirements under which fatal, over-seven-day and specified non-fatal injuries to workers are reported by employers.</p> <p>Specialist physician and general practitioner reporting (THOR) Cases of work-related respiratory and skin disease are reported by specialist physicians within The Health and Occupation Research network (THOR).</p>	<p>労働力調査 (略称：LFS) 労働力調査は、国家統計局によって実施されている全国調査です。現在では、おおよそ <u>37,000</u> の世帯が四半期ごとに調査されています。健康安全庁は、労働力調査に対して、個人の申告に基づく自己報告された作業関連疾病及び作業傷害の状況を知るために、毎年質問をしています。これらのデータの分析及び説明は、健康安全庁のみの責任です。</p> <p>傷害、疾病及び危険事象の報告に関する規則 (略称：RIDDOR) 致命的、7日を超える、及び労働者に対する特定の非致命的傷害が、使用者によって報告されることを要求する規則</p> <p>専門の医師及び一般開業医の報告 (略称：THOR) 作業関連の呼吸器及び皮膚疾病の症例が、健康及び職業研究ネットワーク (THOR)内の専門の医師によって報告されます。</p>
<p>Deaths due to occupational disease Some occupational lung diseases, including the asbestos-related diseases mesothelioma and asbestosis, can be identified from the recorded cause of death. In other cases the number is estimated from epidemiological information.</p>	<p>職業性疾病による死亡 石綿関連疾病、中皮腫及び石綿肺を含むある種の肺疾病は、記録された死亡原因から特定できます。他のケースでは、その数は、疫学的情報から推計されます。</p>
<p>Enforcement</p>	<p>施行</p>

<p>The enforcing authorities are HSE, local authorities and, in Scotland, The Crown Office and Procurator Fiscal Service (COPFS). In Scotland, HSE and local authorities investigate potential offences but cannot institute legal proceedings and the COPFS makes the final decision on whether to institute legal proceedings and which offences are taken.</p> <p>HSE Costs to Britain Model</p> <p>Developed to estimate the economic costs of injury and new cases of ill health arising current working conditions. The economic cost estimate includes both financial and human costs.</p>	<p>施行機関は、健康安全庁、地方自治体及びスコットランドでは王立事務所及び地方検察官事務所（略称：COPFS）です。</p> <p>スコットランドでは、健康安全庁及び地方自治体は、犯罪の嫌疑を捜査するが、起訴手続きは行えません、そして王立事務所及び地方検察官事務所（略称：COPFS）が起訴すべきかどうかに関して、そしてどの違反を提起するかについて最終的な決定を行います。</p> <p>健康安全庁のブリテンコストモデル</p> <p>現在の労働条件から生ずる傷害及び新規の疾病の症例の経済的コストを見積もるために開発されました。経済的コストは、財政的及び人的の両方のコストを含んでいます。</p>
<p>Eurostat</p> <p>Eurostat (the statistical section of the European Commission) publishes data on fatal accidents at work. Fatality rates are standardised to take account of the different industrial structure of employment across European Union member states, and exclude road traffic accidents and accidents on board of any mean of transport in the course of work.</p> <p>European Labour Force Survey (EU-LFS)</p> <p>A large household survey carried out in the Member States of the European Union. In 2013 the EU-LFS included an ad-hoc module asking about accidents at work and work-related health problems in the previous 12 months.</p>	<p>ユーロスタット</p> <p>ユーロスタット（欧州委員会の統計部門）は、職場での死亡災害に関するデータを公表しています。死亡率は、欧州連合加盟各国を通じて雇用の異なる産業構造を考慮するために標準化されており、そして労働の過程におけるいかなる手段にせよ移動中の道路交通災害を除外しています。</p> <p>欧州労働力調査（EU-LFS）</p> <p>大規模な世帯調査が、欧州連合の加盟国で実施されました。2013年には、欧州労働力調査は、過去12カ月における職場での災害及び作業関連健康問題に関して質問する追加の質問項目を含んでいました。</p>

(定義)

Definitions	定義
<p>Rate per 100,000 The number of annual injuries or cases of ill health per 100,000 employees or workers, either overall or for a particular industry.</p> <p>95% confidence Interval The range of values which we are 95% confident contains the true value, in the absence of bias. This reflects the potential error that results from surveying a sample rather than the entire population.</p> <p>Statistical Significance A difference between two sample estimates is described as ‘statistically significant’ if there is a less than 5% chance that it is due to sampling error alone.</p> <p>Standard Industrial Classification (SIC) The system used in UK official statistics for classifying business by the type of activity they are engaged in. The current version is SIC 2007. Industry estimates presented here are at SIC Section level.</p>	<p>10 万人当たりの発生率 産業全体又は特定の産業における、被雇用者又は労働者 10 万人当たりの年間の傷害又は疾病の症例の数</p> <p>95%信頼性区間 我々が 95%の信頼性があるとしている値の範囲は、バイアスなしでの真値を含んでいます。これは、母集団全体ではなくサンプルを調査することから生ずる潜在的な誤差を反映しています。</p> <p>統計的有意性 二つのサンプル推定値の間の差は、もしもサンプリングの誤差のみに起因する確率が 5%以下であれば、「統計的に有意である」と表現されます。</p> <p>標準産業分類(SIC) 従事している活動のタイプによる事業の分類のための連合王国公式統計において用いられるシステム。現在のバージョンは、SIC2007 です。産業別の推計値は、ここでは SIC の業種分類レベルで提供されています。</p>
<p>National Statistics The LFS, RIDDOR, deaths from occupational lung disease, THOR, enforcement and Costs to Britain figures in this report are National Statistics.</p>	<p>国家統計 この報告における「労働力調査、傷害、疾病及び危険事象の報告に関する規則、職業性肺疾病による死亡、専門の医師及び一般開業医の報告、施行及びブリテンへのコストの算定」は、国家統計です。</p>

<p>National Statistics status means that statistics meet the highest standards of trustworthiness, quality and public value. They are produced in compliance with the Code of Practice for Statistics, and awarded National Statistics status following assessment and compliance checks by the Office for Statistics Regulation (OSR). The last compliance check of these statistics was in 2013..</p> <p>HSE Chief Statistician Simon Clarke Contact simon.clarke@hse.gov.uk Last updated October 2019 Next update October 2020</p>	<p>国家統計は、信頼性、品質及び公共的価値の最も高い基準に適合しています。これらは、統計の実施準則を遵守して生み出されており、そして統計規制事務所 (OSR) による評価及び遵守状況の確認の後に国家統計の位置づけを与えられています。これらの統計における最新の遵守状況の確認は 2013 年に行われました。</p> <p>健康安全庁首席統計官 サイモン クラーク 連絡先 : simon.clarke@hse.gov.uk 最新更新 2019 年 10 月 次の更新 2020 年 10 月</p>
<p>More information about our data sources can be found at www.hse.gov.uk/statistics/sources.htm</p> <p>HSE's statistics revisions policy can be seen at www.hse.gov.uk/statistics/about/revisions/index.htm</p> <p>Data tables can be found at www.hse.gov.uk/statistics/tables/</p> <p>For information regarding the quality guidelines used for statistics within HSE see www.hse.gov.uk/statistics/about/quality-guidelines.htm</p>	<p>我々のデータソースに関するさらなる情報は、次で参照することができます。 http://www.hse.gov.uk/statistics/sources.htm</p> <p>健康安全庁の統計改訂政策は、次で参照することができます。 www.hse.gov.uk/statistics/about/revisions/index.htm</p> <p>データ表は、次で参照することができます。 http://www.hse.gov.uk/statistics/tables/</p> <p>HSE 内での統計のため用いられている品質ガイドラインに関する情報は、次をご参照ください。 www.hse.gov.uk/statistics/about/quality-guidelines.htm</p>